



第51回卒業証書・第22回専攻科修了証書授与式



NIT, Gifu College

岐阜高専 だより

National Institute
of
Technology,
Gifu College

第133号

2018.3.31

独立行政法人 国立高等専門学校機構
岐阜工業高等専門学校

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑 2236-2

TEL : 058-320-1211

H P : <http://www.gifu-nct.ac.jp/>

CONTENTS

- 2 校長所感
- 3 研究主事・寮務主事所感
- 4 卒業生代表の言葉
- 5 卒業生への言葉
- 6 修了生代表の言葉
修了生への言葉
- 7 研究題目
- 10 卒業・修了証書授与式
- 11 卒業生・修了生進路状況
- 12 退職教職員あいさつ
- 13 高専祭（専門展）
- 14 研修旅行 4年
- 15 研修旅行 3年
- 16 学生受賞等
- 17 教職員受賞コメント
- 18 校内ニュース
- 19 コンテスト報告
- 20 クラブ紹介・同好会紹介
海外インターンシップ派遣者一覧
包括交流協定等締結大学留学生受入一覧



高専祭



デザコン



デザコン2017が成功裏に終了しました

校長 伊藤 義人

平成29年12月2日（土）、3日（日）に、岐阜高専が主管した全国高専デザインコンペティション「デザコン2017 in 清流の国ぎふ ーデザインが天下を制するー」が、成功裏に終了しました。2016年に高知で実施された前大会には、多くの岐阜高専の教職員と一緒に私も2日間も参加して、今回の大会の準備を開始していました。今回の成功は、岐阜高専の教職員の方々の活躍の賜物とっております。実行委員長として厚くお礼申し上げます。

デザコン2017のメインテーマは、「デザインが天下を制する」でした。2017年が、群雄割拠の戦国時代、尾張から美濃を制し、天下に名を馳せた織田信長公が美濃を治めるようになり、また、「岐阜」命名から丁度450年になるため、このメインテーマが選ばれました。ブレークスルーを引き起こし「新たな天下=新たな社会像」を提案する機会になることを目指したものでした。

会場となった「じゅうろくプラザ」は、JR岐阜駅のすぐ隣の5階建てのビルであり、構造デザイン部門（そのけそこのけ王者が通る）、空間デザイン部門（物語（ナラティブ）を内在する空間）、創造デザイン部門（地産地「興」（ちさんちきょう）、AMデザイン部門（安心・安全アイテム開発）およびプレデザコン部門（気になる“もの”）の5つの部門がうまく各階に配置して実施できました。交流会も1階のレストランでできました。交通の便がよく、また、12月の最初の土曜日と日曜日に開催されたため、小学生や中学生の子供連れのご参加者も来られていました。デザコン2017は、高専学生の実践的で、かつ創造的な活動を社会に発信するよい機会になりました。

デザコン2017に参加した岐阜高専をはじめとする全国の高専生たちの活躍は目を見張るものがありました。空間デザイン部門、創造デザイン部門およびAM部門は予選があり、事前に岐阜高専で行われた厳正な審査で、空間デザイン部門は155チームから11チーム、創造デザイン部門は47チームから10チーム、AM部門は24チームから12チームが本選に選ばれました。予選のない構造デザイン部門とプレデザコン部門は、それぞれ56チームと29チームでした。構造デザイン部門には、モンゴル国の3高専の合同チームも、銅線による立派な橋を造って初めて参加してもらいました。各部門は、建築学科や環境都市学科（土木系）に限らず機械系などの学科からの参加もあり、大いに盛り上がりました。

空間デザイン部門や創造デザイン部門における学生の熱心なプレゼンテーションと、その後の審査員とのやりとりにより、私は大変感銘を受けました。今年の審査員の先生方には教育的な配慮もいただき、惜しくも賞を逃した学生

達は、それをバネにさらに頑張るように励まされてきました。私が、最初から最後まで参加した構造デザイン部門は、銅線を使った橋のコンペティションでしたが、偏芯荷重と5kgの鋼球を橋上を通過させる、大変難しいものでした。最適設計を目指して軽量化し過ぎて、初期の偏芯荷重で壊れるもの、鋼球の移動中や落下した時の衝撃で部材が座屈して壊れるものなど、構造工学的にも大変興味深いものがありました。橋梁工学を専門とする私が見ても、非対称で大変よく工夫されている橋が多かったと思います。今回初めて参加したモンゴル国からの3高専の合同チームや機械学科の学生の複数のチームも大変がんばっていました。創造的な活動をやりとげた満足感と、大臣賞などを逃した悔しさを学生達は素直に表していました。

学生達の真摯で創造的な活動とそれを支える高専の教職員の協働作業は、高専の社会への情報発信のよい事例になると思います。高専ロボコンは、国内で非常によく知られていますが、デザコンも14回を重ね、もっと社会に知られてもよい存在と思います。

そのためには、予選がある部門で、同一高専から本選に4件あるいは3件が集中した部門の事例が今回初めてあり、対応を今後考える必要があると思います。構造デザイン部門は、全国予選はありませんが、学内で予選をして規定に従って2つまでに絞ってきている高専もあり、参考になると思います。

また、閉会式でも、受賞対象の作品をもっとわかりやすく映像などで見せて、その部門に参加できなかった人達や一般の参加者にも分かるようにするとよいと思います。多くの民間企業、協会や関係省庁に支えられたデザコンの今後の発展と、これらの活動を利用した高専の社会への情報発信を強く願っています。

全国規模の行事として、平成29年に引き続いて、平成30年8月20日（月）～8月22日（水）に、岐阜高専が主幹する全国高専フォーラムが、名古屋大学で会場をお借りして開催予定です。既に実行委員会は動いており、岐阜高専の教職員の方々には全員出勤の形で準備をしていただいております。岐阜高専は、デザコン2017で、全国規模の行事の企画運営が十分できるという力を示しましたが、非定常のこのような行事を続けて実施することは、教職員にとって大きな負担となっていることは、よく承知していますが、「社会に発信し、社会に貢献する高専」となるために避けては通れないと思っております。皆様のご協力をお願いいたします。

研究主事・寮務主事所感



時代に対応した 高専教育に向けて

副校長（研究主事） 和田 清

わが国に高専制度が誕生して55年が経過しました。その間、本校は総勢約8,000名の卒業生を社会へ送り出し、多方面で活躍されています。これら全国高専生の社会的評価の裏付けとして、最近では、新聞紙上に高専生の就職先が特集されるなど、次世代の活躍が期待されています。

現在、国立高専は社会の要請を受けて時代の変化に対応している段階です。「教育の質の保証」では、数学・物理などの全国一斉到達度試験、MCC（モデルコアカリキュラム）、文科省の教育 AP 事業による ICT 環境整備と AL（アクティブラーニング）、学修支援コンテンツの開発などが盛んです。また、ロボコン・デザコン・プロコンなどの競技にも積極的に参加し、本校が主管したデザコン2017では、創

造デザイン部門、ブレデザコン部門で受賞に輝いています。具体的な課題解決策を自ら見出す社会実装実験の成果として評価できます。

また、グローバル高専事業により、キャンパス内では長期留学生に加えて、短期留学生（0.5～5ヶ月）の滞在が多くなりました。英語によるコミュニケーションの必要性が徐々にキャンパス内で広がっています。今年3月には、包括交流協定を締結した海外大学と国際交流セミナーを岐阜市で開催し、教員相互の学術交流を推進する予定です。

さらに、高専機構が進める「KOSEN(高専)4.0 イニシアティブ：地域に根ざした次世代を担う課題解決型人材育成事業」では、第4次産業革命を意識した新産業を牽引する人材育成、地域への貢献、グローバル化の加速・推進などを成果指標として、本校の強みを活かしながら地域と連携・協働しながら展開しているところです。早期専門教育を特長とする高専教育の学びの質を向上させる取組みに、皆さんの持続的な参画を期待しています。



寮生活③

副校長（寮務主事） 麻草 淳

岐阜高専雄志寮では、寮務会議委員が授業日の朝昼1回ずつ全寮棟を巡回します。巡回の目的は体調不良者の有無、共通スペースの清掃状況、設備・備品の破損の有無などを確認することです。しかし、「在室」を示す居室を訪ねると単なる寝坊である場合も多く、むしろ寝坊を起こすために巡回しているのではないかと感じる時が度々あります。その一方で、寮巡回は週に1回程度、目的は居室施錠の確認、サボリ・寝坊は自己管理の範疇であるとして確認して回るようなことはしない、という高専もあるようです（体調不良者は自ら申告、出席は学級担任が確認しているようです）。

最近では、大学でも寝坊が多い学生にモーニングコールをする、出欠状況を保護者が確認でき

るサービスを提供しているところがあるなど、学生の修学継続への支援がきめ細かくなっています。このような状況からすると、本意ではないものの雄志寮の巡回スタイルは好意的に受け取られるものと思います。しかし、学生達が寮生活を通して自律・自立する機会を阻害している可能性も否めません。学生指導には、支援を行なうことと本人に任すことのどちらも不可欠であると思いますが、寮の巡回一つを取ってみても、何をどこまで行なうのかは考え方によって様々です。

「学生の生徒化」などとも言われており、学生は自律・自立しているべきであるという考えは以前より薄らいできているのかも知れません。今後、岐阜高専においても学業から生活面まで支援が必要な場面が増えていくことが予想されます。それは我々教職員の業務が増えていくことを意味しており、なるべく早い段階で学生（寮生）としての自覚と実践力を持たせることができれば、それがお互いのためであることは間違いありません。来年度もそのような指導を目指していきたいと思ひます。

卒業生代表の言葉



5年間の財産

機械工学科 第5学年 戸崎 太星

高専での5年間は濃いものであったといえます。岐阜高専に入学して工学的なことを多く学びましたが、中でも最も自分の成長につながった部活動について書きます。私は1年生から陸上を続けてきました。初めはやればやった分だけ結果が付いてくる陸上に魅力を感じ、努力してきましたが、経験を積み重ねるごとに、個人での活躍もそうですが、チーム全員で勝ちにいくといった仲間と共に一つのことに取り組むことがいかに難しく、おもしろく、そしてかけがえのない財産であるか、ということに気づきました。このことに気づけたのは、支えてくれた人たちや、先生、そして仲間のおかげであり、私は感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。



卒業生代表の言葉

電気情報工学科 第5学年 高田 将太

高専で過ごした5年間はとても短く感じました。私は5年間の高専生活で勉強と部活の両立に取り組むことができました。授業や電気実験を通して様々な専門知識を得ることができました。また、私はサッカー部に所属しており、最後の高専大会では全国大会に出場することができました。惜しくも敗れてしまいましたが、とてもよい思い出となりました。

高専での生活を通して多くの仲間と出会うことが出来ました。これから私たちは別々の道を歩むこととなりますが、この仲間たちをずっと大切にしていきたいと思えます。

最後にお世話になった教員の皆様、とても感謝しております。ありがとうございました。



ありがとう高専～定量的に五年は長い～

電子制御工学科 第5学年 大野 雄基

私たちは二年間担任として北川輝彦先生に大変お世話になりました。四年生の頃から進路相談を親身になって聞いてくださり、卒業研究でもお世話になった学生がたくさんいます。また、先生のモノボケが大うけで最後の高専祭はとても楽しくとても思い出深いものとなりました。本当にありがとうございました。

たくさんの仲間と共に切磋琢磨し人として、技術者として成長を重ねてきました。これから私たちは社会の一員として新たな一歩を踏み出します。五年という短い時間ではありましたが多くの先生方、仲間にも恵まれたことを幸せに思います。楽しい高専生活をありがとう。皆さんにまた会えることを楽しみにしています。



岐阜高専での5年間

環境都市工学科 第5学年 横山 栄光

入学した時に長いと感じた5年間も卒業を迎えるとおっという間だったと感じます。それは、高専祭での専門展や模擬店、球技大会などの行事に団結して取り組み、とても熱く盛り上げられるクラスだったからです。専門展や球技大会で総合優勝した後に行ったクラスでの打ち上げは最高に楽しかったです。そんなかけがえのないメンバーで5年間を過ごし、卒業できたことをとても嬉しく思います。

また、岐阜高専は自由な校風であり、個人を尊重してもらえます。その中で私は、海外留学やプロボクサーとして活動しておりました。それらの経験を通して、挑戦する勇氣や成果が出るまで諦めずに努力し続けることを学びました。

岐阜高専での学生生活は自分を大きく成長させることが出来たと思えます。ご指導いただいた先生を始め、クラスの皆、今まで育ててくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。



卒業生代表の言葉

建築学科 第5学年 青井 凱飛

岐阜高専に入学してあっという間に5年という月日が経ち私たちも遂に卒業です。思い返せば入学当初は、新しい環境でうまくやっていけるか、留年しないか等様々な不安がありましたが、そんな不安など忘れてしまうほど楽しくアツい5年間でした。

中学時代の私は面倒なことを人に任せ、楽をしてきたため、まさか学生会や高専祭実行委員、そしてラグビー部主将として様々な場面で人をまとめ導く立場になるとは思ってもいませんでした。しかし、そういった経験をしたことで、楽しむためには楽をしてはいけないということを学びました。

最後になりましたが、お世話になった先生方、仲良くしてくれた先輩・後輩達、そして全国高専大会で初の1勝をくれたラグビー部の後輩達、本当にありがとうございました。

卒業生への言葉



卒業に寄せて

機械工学科 第5学年担任 石丸 和博

ご卒業おめでとうございます。進学する人もいますが、いずれ社会の荒波に揉まれることになるかと思えます。その荒波の中、生きていく術を見つけなければなりません。進化論を唱えたダーウィンは「この世に残る生き物は、最も強いものか。そうではない。最も頭が良いものか。そうではない。それは、変化に対応できる生き物だ」との考えを示したと言われていました。この先、どんな世の中が待っているかは誰にもわかりません。自分自身の確固とした信念を持つことは大切ですが、周りの変化に柔軟に対応できる力を身に着け、そして踏ん張り、(いろんな意味で)なんとか生きていってほしいと思います。とは言っても、まずは健康第一です。あまりストレスはためず、健康を害しない程度に頑張ってください。そして、もし何かあったら母校を訪ねてください。また元気な姿で皆さんに会える日を楽しみにしています。



卒業生への言葉

電気情報工学科 第5学年担任 富田 勲

卒業おめでとう。就職関係では、求人企業との面談を数限りなく行いましたが、企業陣の本校生の評価は高く、社会からの期待度は大きいと感じました。そのポテンシャルの高さを活かし、今後社会で活躍することを祈っています。また、大学編入する学生は、今後さらに勉学を積み、いずれは社会へ貢献してもらいたいと思います。5年間の学校生活では、数多くの学習科目をこなし、学校行事にも参加し、努力と苦労があったと思いますが、努力した日々と苦労を乗り越えた経験は、今後人生を送っていく上での糧となるので、大切に、これから先で役立ててもらいたいと思います。今後は、これまでに得た知識と経験を活かし、自分で道を切り拓いていく必要があります。時には自分を奮い立たせて努力し、難関を突破していくことも必要になりますが、相談事がある時は、いつでも高専に来て下さい。



担任として最後の言葉

電子制御工学科 第5学年担任 北川 輝彦

卒業おめでとう！皆さんは人生で約四分の一という長い時間をかけ、今ここに岐阜高専卒業生となりました。高専生は手を動かした実験や研究の経験量が同年の並みの大学生を凌駕しており、社会もそういった知識や能力を大いに評価・期待しています。持ち味を活かし、自信を持ち、かつ慢心せず高みを目指して下さい。また内外で築いてきた人との繋がりは、今後の心の支えとなる変え難い財産なので大切に。

私個人としては年の近い(?)OBとしても仲良くさせてもらいましたが、皆さんが優秀かつシッカリもので、ヌケの多い身としては大いに助けられました。本当に、本当に有難う。今後の皆さんの活躍と、何より幸せを祈っています。

P.S. 人との出会いの機会は積極的に作ろう！ & 困ったら高専を尋ねてね！



卒業生へのことば

環境都市工学科 第5学年担任 水野 剛規

ご卒業おめでとうございます。就職するにしても進学するにしても多感な時期を過ぎた長いようで短い高専生活を終え、いま人生の大きな節目を迎えているのではないのでしょうか。特に就職する学生については親の庇護を離れ一人の社会人としてこれからの人生は自身で決断し切り開いていくことが求められると思います。人生は自由であるとともに大きなリスクを孕んでいるので注意が必要ですが、若いうちはたくさんのごことに挑戦し、たくさん失敗してください。成功体験も素晴らしいものですが、案外失敗したときの方が得るものが多いと思います。それに社会は若者に対して失敗に寛容で、周囲がフォローしてくれる場合が多いです。それでは豊かで実りある人生を送ってくださいね。



成蹊

建築学科 第5学年担任 下村 波基

成蹊は「桃李言わざれども下自ずから蹊を成す」から派生し、「桃李」を俳優名に持つ若手がいることもあり若い人達にも馴染みのある言葉と思われまふ。司馬遷の友人に李陵(りりょう)がいて、匈奴相手に勇戦しながらも寝返りしたと誤解された悲運の将軍です。彼を擁護したばかりに官刑を受けるはめになりましたが、史記では李陵の祖父李広(りこう)をこの言葉で褒めたとされています。この李広は「李広岩を射る」でも知られた弓の名手であり、李陵もその血を引いています。時も場所も変わって、この李陵は天折した中島敦の短編小説「李陵」でも弓の名手として登場し、弓の名人とされる仙人のもとで修行を積んだ結果「不射の射」を会得し、都に降りてきたときには弓の存在・使い方も判らない境地に至っていた…、という粗筋です。

「蹊を成す」のは大変なことですが、皆さんにはそれぞれの道で花を咲かせ桃や李を結実して貰いたいものです。

修了生代表の言葉



専攻科修了にあたって

先端融合開発専攻 2年次 服部 聖也

岐阜高専に入学してから、7年という月日が経ちました。多くの先生方や同級生などの支えがあったからこそ、この7年間充実した毎日を送ることができました。

私たちの学年は、先端融合開発専攻の1期生として2年間の学生生活を送りました。専攻科の仕組みが大きく変化したことで、当初は戸惑うことも多々ありました。ただ、一つの専攻になったことで他学科出身者の人との交流が増え、協力して日々の生活を送ることができたと思います。社会に出ると、様々な人と関わりつつ仕事を行っていくため、社会に出る前の良い経験になったと感じています。

この春からは私も社会人の一員となります。専攻科で培った多角的な視野や経験などを活かし、日々の努力を怠らない毎日を送っていききたいと思います。

修了生への言葉



修了生への言葉

専攻科長 北川 秀夫

専攻科修了おめでとうございます。皆さんは「先端融合開発専攻」第一期の修了生となりますね。本科では5学科に分かれて各学科の授業を受けていましたが、専攻科では全ての学生が同じカリキュラムで修了まで過ごしてきました。ちなみに、単一専攻の専攻科を持つ高専は他にもあるのですが、それらの専攻科は一専攻の中でコース分けがされています。単一専攻・単一コースとなっているのは、私の知る限りでは岐阜高専のみです。

一つになることにより、単に受講する授業に複合・融合的な内容が増えたこと以上に、異なる専門分野を持つ同級生と一緒に授業を受けたことが、皆さんにとっては貴重な体験になったことと思います。在学中にその違いを感じて、刺激を受けたこともあったのではないのでしょうか。

本日をもって皆さんは岐阜高専専攻科から離れてそれぞれの途を進みますが、この体験とここで培った絆は今後も大切にしてください。



修了生への言葉

専攻科長補佐 犬飼 利嗣

専攻科修了おめでとうございます。皆様に心よりお祝い申し上げます。本科から含めると7年間にわたる長い学生生活に別れを告げ、社会人や大学院生として新たな舞台に飛び立ちます。将来への夢や希望、そして緊張感や不安の入り交じった胸中にあると思います。しかし、その一方で、爽やかな思いもあり、先の長い人生の中で、とても貴重な時を体感していることでしょう。これから今の思いを大切に、新しい舞台で活躍してくれることを大いに期待しています。

君達は本学の教育理念である「実践的かつ専門的な知識と融合した先端技術」を体得した実践的かつ創造的な技術者です。常に謙虚であり、切磋琢磨し自己研鑽に励めば、必ずや夢を叶えることができると信じています。今後の人生において、目の前には大きな壁が立ちはたかり、出口の見えないトンネルでさ迷うこともあるでしょう。しかし、君達なら、どんな難関もきっと乗り越え幸せをつかみ取るに違いありません。本校の専攻科修了生として誇りを持ち、留まることなく躍進してください。

グローバル高専事業の活動

国際交流室長 羽淵 仁恵

岐阜高専は、グローバル高専事業第3ブロックの拠点校として活動しており、今年度が2年目となります。今年度は高専が実施する海外研修に本科生9名、専攻科生14名が参加しました。これは、おそらく岐阜高専創立以来の最大の学生数です。国内でも英語が鍛えられるようにエンパワーメントプログラムや放課後英会話ルームや英語トークカフェを開催し多くの学生が参加しました。また、海外から21名の短期留学生も受入れて本校学生と実習を行いました。高専生は英語の能力が低いと言われていました。しかしながらこのような国際交流活動により、岐阜高専の学生の英語力は確実に向上しています。岐阜高専では英語でコミュニケーションしたいという自発性を育て、楽しく自然と英語が身につくような教育環境を作っていきたいと思っています。



平成29年7月10日に行われた
海外インターンシップ・短期留学壮行会

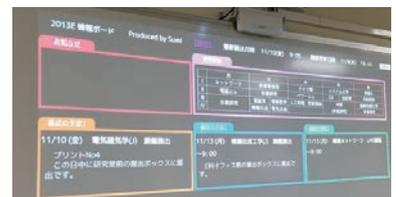
APによる岐阜高専のICT教育環境改革

教育AP推進室長 所 哲郎

岐阜高専も参加する、大学ICT推進協議会の2017年度年次大会が、前年12月に広島国際会議場で開催されました。「NGDLE（次世代電子学習環境）」についての米国EDUCAUSE理事からの基調講演の他、多くの大学・企業参加のある活気に満ちた会議でした。

さて、岐阜高専の文部科学省大学教育再生加速プログラム(AP)テーマI・II複合型事業についても、本校で3月13日に年度末成果報告会を開催しました。どの様に優れたNGDLEを構築できたとしても、そのコンテンツが揃わなければ意味がありません。本校では、「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも・どこまでも」をICT活用教育改革の理念として、可視化・共有できることを目指しています。

岐阜高専は学校関係者全員参加の教育改革を公約しています。本校関係者全員に全国から注目されていることを意識して頂き、引き続き教育改革に邁進していきます。



大学参加者に最も好評であった学生によるICT活用教育改善システムの写真（5E墨君提供）

研究題目

● Y

学生氏名	主査	特別研究題目
浅井 邦夫	下村 波基	高力ボルトのエネルギー解放率に関する実験的研究—市販の F15T 級高力ボルトのエネルギー解放率と板要素の剛性について—
伊藤 大樹	下村 波基	暴露状況下にある木質系架構内の棒鋼の腐食に関する研究—熱放射による棒鋼温度の相違について—
大坪 幹弘	和田 清	多段式落差工のエネルギー減勢効果と堆砂過程に関する研究
大野 宏尚	中谷 淳	EFD/CFD 融合による空力係数測定精度向上に関する研究
尾関 優汰	片峯 英次	非定常粘性流れ場における形状最適化
加納 英樹	安田 真	GPGPU による帰属性計算および温度を並列化した FCM 法
河合 有美	鶴田 佳子	コペンハーゲン市におけるローカルプラン策定過程での住民参加の実態
河崎 拳吾	青木 哲	建物外皮が受ける照り返しの鉛直分布とその遮熱に関する研究—拡張アメダスデータを用いた照り返しの地域性検討—
葛谷 藍香	柴田 良一	オープンソース破壊解析システムによる鋼製剛飛翔体の高速衝突を受けるコンクリート壁体の局部破壊解析
後藤 孝史	白木 英二	パルス捕捉現象による NOLM を用いた光パルス計測に関する研究
子安 純平	青木 哲	幼稚園における長期測定に基づいた冬季低湿度対策に関する研究
佐藤 充	下村 波基	高力ボルト中における拡散性水素の挙動に関する解析的研究—応力分布と拡散性水素の拡散状況について—
関谷 真吾	柴田 良一	オープンソース CAE による RC 床版橋の弾塑性解析—被災時における終局状態の検討—
武山 真大	中谷 淳	鼻腔—咽頭領域におけるエアロゾル粒子の沈着特性に関する一考察
田中 光彦	安田 真	Tsallis エントロピー最大化 FCM 法における q パラメータ閉じ込めへの Canopy の応用
永井 孝英	山田 実	二次元システム制御理論による自動注湯機の最適制御
西川 顕正	柴田 欣秀	トカマク型核融合装置における外部共鳴振動磁場がプラズマ閉じ込めに与える影響の調査
西中 智樹	田島 孝治	岐阜県外来生物情報システムにおける情報提示方法の高度化に関する研究
野田 米太	白木 英二	パルス捕捉現象による NOLM の高機能化に関する研究
服部 聖也	菊 雅美	波と風の同時作用下における物体の漂流挙動に関する研究
廣瀬 由梨奈	下村 波基	F15T 高力ボルトの拡散性水素による遅れ破壊に関する研究—市販の超高力ボルト SHTB の亀裂の発生と伝播についての in-situ 実験とネジ底部の応力解析—
堀江 弘将	柴田 欣秀	大型トカマク装置 DIII-D における電流クエンチ時のプラズマ応答に関する研究
前田 宗春	水野 和憲	剛塑性有限要素法を用いた土圧算定の基礎的研究
宮崎 泰樹	渡邊 尚彦	矩形タンクのバルジング振動への内構材影響に関する実験的研究
三輪 昌徳	所 哲郎	Dynamic Drop Test と画像解析を用いた高分子電気絶縁材料の撥水性維持能力評価に関する研究
山田 昇生	北川 秀夫	マルチラテラル遠隔制御のための全方向移動台車
渡邊 篤	青木 哲	環境音楽および効果音の再生による心理的影響に関する研究

● S

学生氏名	主査	特別研究題目
吉永 颯斗	田島 孝治	夜間のトイレに注目した屋内用行動見守りシステムの試作

● M

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
有園 舜	本塚 智	DV-X α 法による合金中の異種元素間の弾性定数の予測手法に関する基礎的研究
飯沼 雅也	高橋 憲吾	風によるクレーンの逸走に関する動的シミュレーション解析—繰返し吹く突風が逸走特性に及ぼす影響—
今西 巧	山田 実	粒子法による流体シミュレーションアプリの開発
岩井 綾星	山田 実	三次元プリンタ用鋳型材料の特性評価
植村 友信	中谷 淳	FaSTAR を用いた Waverider の極超音速飛行解析に関する基礎的研究
岡部 逸樹	河野 託也	生徒に馴染みのある玩具を利用した科学教材を開発するための調査と提案
折戸 友香	小栗 久和	アクリル樹脂板の機械的性質に及ぼす負荷速度の影響
川島 優介	片峯 英次	非定常 3 次元粘性流れ場における形状最適化
木田 なを	山田 実	レゴマインドストーム EV3 を用いた科学リテラシー教材の開発
草野 恭宏	小栗 久和	アクリル樹脂板の衝撃疲労試験装置の試作
河野 真輝	山本 高久	呼出条件が経鼻呼出流におよぼす影響に関する一考察
後藤 広太郎	加藤 浩三	異形状穴抜き加工のだれ制御についての研究
佐藤 大輝	石丸 和博	単管型大気圧マイクロプラズマジェットの新シリコンフィルム形成への応用
塩中 翔太	小栗 久和	アクリル樹脂板の引張および圧縮負荷における弾性係数の測定
柴田 雅仁	中谷 淳	FaSTAR を用いた三次元翼の低速流れ解析に関する研究
城谷 尚宏	片峯 英次	流体中に置かれた回転体の有限要素解析
末松 孝太	河野 託也	微細藻類の光応答評価のための 450nm 半導体レーザー光源システムの開発
高橋 直樹	加藤 浩三	分流鍛造を適用した平押し法についての研究—半せん断工程のクリアランス条件が押し戻し工程の分離可否に及ぼす影響—
寺田 知弘	石丸 和博	同軸二重管型大気圧マイクロプラズマジェットのシリコンフィルム形成への応用
戸崎 太星	加藤 浩三	板鍛造による円柱形状突起成形についての研究
西垣 公貴	宮藤 義孝	ミストを用いた溶接部の冷却と残留応力測定に関する基礎的研究
西戸 耕太郎	本塚 智	粉碎加工で誘起される集合組織の加工温度依存性の解明
野々村 奎吾	中谷 淳	低速風洞装置 AF1300 を用いた三次元翼の空気力測定に関する研究
野々村 公輔	宮藤 義孝	ミストを用いた溶接部の冷却と可視化に関する基礎的研究
長谷川 将也	石丸 和博	低濃度水素燃料を用いた固体高分子形燃料電池の出力安定化に関する研究
服部 竜之介	山本 高久	Casson モデルを用いた血流解析に関する一考察
花崎 健太	本塚 智	鉄粒子の粉碎中における黒鉛粒子の挙動
日比野 加奈	山本 高久	拍動パラメータが動脈管内流れに及ぼす影響に関する一考察
兵頭 一輝	河野 託也	卓上型ライントレースロボットの開発
広瀬 智史	片峯 英次	非定常熱弾性場における形状最適化
細野 大貴	中谷 淳	シングバイを用いた冥王星探査のための最適惑星間軌道的设计
堀田 結来	石丸 和博	スパッタリング法による Ni 薄膜作製に関する研究
武藤 司	小栗 久和	溶接構造用圧延鋼の破壊靱性値とポイド形状の関係
森 厚樹	加藤 浩三	分流鍛造を適用した平押し法についての研究—半せん断工程のクリアランスが押し戻し工程の分離面性状に及ぼす影響—
渡邊 直哉	高橋 憲吾	風によるクレーンの逸走に関する動的シミュレーション解析—ブームの起伏角度が逸走特性に及ぼす影響—
渡辺 浩基	河野 託也	LED 光センサを利用した位置決め装置の開発
渡邊 大登	中谷 淳	構造強度に着目した缶サット教材の開発

研究題目

E

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
赤塚 大晃	富田 睦雄	電磁解析ソフトウェア JMAG による埋込磁石同期モータの形状検討
足立 将梧	柴田 欣秀	トカマク型核融合装置におけるコーシー条件面法を用いた磁気面同定法の検証
安藤 拓己	羽瀧 仁恵	グラファイト状窒化炭素薄膜の透過率および反射率スペクトルと測定システムの改善
池野 蒼依	白木 英二	パルス捕捉現象による非線形光ループミラーを用いた超短パルス光スイッチングに関する研究
犬飼 将也	所 哲郎	電気絶縁材料の非接触撥水性計測に関する研究
伊禮 悠平	所 哲郎	モーションキャプチャシステムを用いた電気絶縁材料の撥水性計測に関する研究
岩井 捷	山田 博文	順伝播型ニューラルネットワークの活性化関数に関する研究
小野 拓海	富本 悠公	トカマク型核融合装置における危険通知システムの開発
柿沼 凜	所 哲郎	DDT に及ぼす試料の吸水と表面粗さの影響
川口 建人	白木 英二	半導体可飽和吸収体を用いた超短パルスレーザーの性能評価
近藤 貴斗	安田 真	Auroral Electrojet 指数のフラクタル解析
後藤 航平	熊崎 裕教	異方性エッチング型 FBG 振動センサの検討
坂井 晴哉	白木 英二	パルス捕捉現象による NOLM を用いたモード同期レーザーの開発
杉原 萌真	羽瀧 仁恵	グラファイト状窒化炭素薄膜の合成のための原料の探索
鈴木 理央	柴田 欣秀	トカマク型核融合装置における垂直位置移動現象のメカニズム解明
高木 誕	熊崎 裕教	フィルタ用 FBG の曲げによる振動測定感度の制御
高田 将太	富田 睦雄	拡張誘起電圧に基づく同一次元オブザーバを用いた IPMSM の位置・速度センサレス制御
長尾 拓実	羽瀧 仁恵	グラファイト状窒化炭素薄膜の赤外吸収スペクトルの測定
畑中 孝斗	富田 睦雄	低速時におけるシンクロナスリラクタンスモータの位置・速度センサレス制御
林 隼也	富田 睦雄	磁束モデルに基づく同一次元オブザーバを用いた IPMSM の位置・速度センサレス制御
本田 凌理	白木 英二	誘導ラマン散乱を利用した波長可変超短パルスファイバレーザーの開発
松本 崇宏	富田 勲	シリコンによるラマン散乱を用いた光増幅器の研究
水野 紘希	富田 勲	ナノワイヤを用いた量子化抵抗の観測
三田村 尊恒	富田 勲	有限領域内の光ファイバーの敷詰め数の最大化の研究
森田 純也	富田 勲	半導体非線形光導波路を用いた光スペクトル広帯域化の研究
山越 晶太	柴田 欣秀	核融合実証炉 DEMO における垂直位置移動現象に関する研究
浅川 昂平	羽瀧 仁恵	LabVIEW を用いた電気伝導計測システムの開発
稲垣 天斗	出口 利憲	テキストマイニングを用いたニュースサイトの分類
江崎 あかね	白木 英二	簡易型 SD-OCT 装置の開発
大橋 拓馬	田島 孝治	人による楽曲分類を活用した音楽コード自動認識手法の検討
小川のぞみ	山田 博文	Convolutional Neural Network を用いた画風変換に関する研究
折戸 友美	羽瀧 仁恵	グラファイト状窒化炭素薄膜の光伝導と CPM の測定
久保田 勤太郎	出口 利憲	カオスニューラルネットワークによる逐次学習に関する研究
小林 涼介	羽瀧 仁恵	X 線回折による結晶構造の配向解析
杉尾 雄太	熊崎 裕教	
墨 啓希	田島 孝治	遠隔地での共同音楽制作を目的とした MIDI メッセージ伝送システムの試作
高木 雅哉	田島 孝治	視線情報と位置情報を組み合わせた側方確認動作検知手法の提案
高橋 涉	山田 博文	Deep Feature Interpolation による画像変換に関する研究
竹中 一生	出口 利憲	タッチ操作による教育用コンテンツにおけるユーザビリティの基礎的研究
玉田 一将	安田 真	前件部パラメータ同定に黄金分割法を使用したファジィモデリングに関する研究
筑間 弘樹	柴田 欣秀	ニューラルネットワークを用いたプラズマ不安定性予測に関する研究
雛 大希	富本 悠公	飲食店における Kinect V2 を用いた空席予測システム
平野 雅浩	所 哲郎	三次元電極系間の複合誘電体の電界分布評価に関する研究
藤田 茉佑	安田 真	人間の感性を反映したチラシ向けデザイン作成補助システムの開発

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
船橋 聡太	出口 利憲	ディーブラーニングを用いたパーフェクト・リバーシの局面評価の研究
森 祥平	田島 孝治	ランサムウェア対策を目的としたファイル保護方式の検討
門真 祐一	山田 博文	画風変換における損失重み係数の決定方法とその考察
安田 雄之祐	安田 真	最大エントロピー原理に基づくファジィクラスタリングにおけるクラスタ数の推定

D

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
浅井 亮大	森口 博文	公開ライブラリを利用した非線形シュレーディンガー方程式の数値計算プログラムの作成
安達 愛華	黒山 喬允	タイヤ音に基づく路面状態検出に関する研究
伊藤 広樹	遠藤 登	深層学習による道路標識認識
岩切 萌	小林 義光	小型電磁石を用いた磁気浮上搬送系のパラメータ同定手法の検討
岩田 直樹	北川 輝彦	敵対的生成ネットワークを用いた訓練データ拡張手法の開発
岩橋 拓海	福永 哲也	FPGA を用いた物体探索の高速化手法のためのソフトウェアでの検討
上田 修平	北川 輝彦	非造影腹部 X 線 CT 画像を用いた肝臓領域における右葉左葉分類手法の開発
上村 ユイコ	栗山 嘉文	中子造形における射出時の砂の流動およびベントの流出流量操作による砂の流動の調査
大野 喬史	長南 功男	眼球移動を入力インターフェースとするロボット操作の開発
大野 雄基	栗山 嘉文	積層モータにおける積層時のトルク特性に関する調査
奥村 奨司	長南 功男	「Leap Motion」を用いた指文字認識
長田 一哉	福永 哲也	クラウドサービスを用いた顔認識プログラムの作成
各務 達郎	北川 秀夫	肘関節角度推定のための筋電位を用いたマンマシンインターフェースの開発
可知 皆人	遠藤 登	MayaAPI を用いた変形シミュレーションプラグインの作成
小島 良太	藤田 一彦	ブラシレス DC モータのベクトル制御のためのプログラム開発
児島 亮平	長南 功男	人体通信機能を搭載したウェアラブルデバイスの研究
小林 直人	藤田 一彦	VEE を用いた電子デバイスのための周波数特性および温度特性自動測定システムの構築
椎葉 京介	藤田 一彦	P-E ヒステリシスループ自動測定プログラムの開発
柴田 あらた	栗山 嘉文	砂型中子造形に使用するベントの流量性能の調査
嶋口 大輝	森口 博文	公開ライブラリを利用した磁場対流の基礎方程式における数値計算プログラムの作成
高木 久嗣	遠藤 登	全方位カメラを用いた 3 次元計測
高木 郁憲	北川 秀夫	ビデオカメラの揺動制御に関する研究
棚瀬 勇介	黒山 喬允	レーザ偏向法による光散乱体を含む水中の音場計測に関する研究
棚橋 秀斗	黒山 喬允	散逸粒子動力学法による音波伝搬解析に関する研究
土屋 充志	小林 義光	減速比に着目した低重心型二輪移動ロボットのモデル化の検討
岡山 匡	小林 義光	Scilab と遠隔操作 IP システム (TIPI) を用いたネットワーク化制御の実現
中川 晋太郎	森口 博文	同期現象に関する連立微分方程式の Excel の VBA を使用した数値計算
西 亮徳	遠藤 登	顕著性領域を用いた交通標識領域抽出の改善
西脇 一輝	栗山 嘉文	マグナス効果を利用した複合式風車の開発および性能調査
二山 愛理	北川 輝彦	造影 X 線 CT 画像を用いた脾臓領域の自動抽出手法の開発
畑中 佑斗	黒山 喬允	単一気泡振動放射音に基づく液体の粘度測定に関する研究
平澤 彦大	北川 秀夫	回診支援ロボットのための人物追従システムの研究
廣瀬 慶司	福永 哲也	移動式ロボットにおける EasyVR の使用検討
藤田 智也	北川 輝彦	機械学習による胸部 X 線 CT 画像からの腫瘍検出手法の開発
前田 浩丞	小林 義光	画像による機械学習を用いた自律巡回ロボットのための位置推定の検討
松本 拓也	長南 功男	足底圧力を用いた人物認識システムの開発
安江 玲於	北川 秀夫	遠隔操作による人間動作再現のための人型ロボットの研究
山内 隼	栗山 嘉文	積層モータの設計と回転制御
山田 翔哉	福永 哲也	FPGA を用いたニューラルネットワークのハードウェア実装
吉田 泰一朗	藤田 一彦	Visual Basic2017を用いた誘電率自動測定システムの改良

● C

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
相崎 結衣	吉村 優治	種々の要因による光合成量の変化に関する研究
青山 万丈	岩瀬 裕之	含水率測定における等比共面電極の特性に関する基礎的研究
荒深 光左	菊 雅美	UAV-SfM/MVS 測量に基づく礫浜の地形変化特性に関する研究
安藤 祐輝	水野 和憲	土圧算定における剛な仮想擁壁のモデル化と擁壁-地盤間の相互作用
市橋 祐希	岩瀬 裕之	内外断熱型枠による養生がコンクリート強度に及ぼす影響に関する研究
稲川 桃子	水野 剛規	水平 2 方向地震下におけるアンカー部を考慮した鋼製橋脚の地震挙動特性
岩崎 大也	岩瀬 裕之	都市型浸水被害の予測と避難困難度に関する研究
上田 悟	吉村 優治	簡易な施工を可能とする支持杭の提案
大内 誠直	菊 雅美	礫浜に設置された消波ブロックの機能性評価に関する研究
大野 萌菜	吉村 優治	土木観光マップ~土木っていいな Ver. 岐阜~
大野 凌雅	水野 剛規	少数主桁橋のリダンダンシー特性の解明
岡田 萌花	和田 清	都市型浸水被害の予測と避難困難度に関する研究
川口 菜那	角野 晴彦	UASB リアクターによる硫酸塩を含む電子産業排水の長期連続処理
北川 敦葵	岩瀬 裕之	等比共面電極によるコンクリート充填状態の判定に関する研究
木村 大地	渡邊 尚彦	実矩形貯水槽のバルジング振動に対する解析的研究
桐山 友香理	水野 剛規	鋼トラス橋の下弦材連結部の終局挙動に関する解析的研究
佐村 駿太	和田 清	山地河川における魚道の機能改善に関する研究~牧田川瀧ノ魚道を対象として~
篠田 隆	水野 剛規	ロッキング橋脚を有する橋梁の構造安定性に関する基礎的検討
末松 杏介	廣瀬 康之	岐阜西部地区の地方鉄道が地域に及ぼす影響
杉山 菜々子	渡邊 尚彦	実矩形貯水槽のバルジング設計に関する実験的研究
高井 幹太	鈴木 正人	地球温暖化予測情報第 8 巻による降雨の時間分布特性の再現性の確認と将来予測
高橋 篤輝	水野 和憲	剛塑性構成式を用いた簡易残留変位算定の妥当性に関する研究
高橋 広大	和田 清	中小河川における合流部周辺の流れ場の構造に関する研究
戸崎 楓	水野 和憲	支持力問題における破壊領域の定量化と破壊形態の解析的考察
中井 満輝	川端 光昭	人口低密度地域におけるライドシェア導入可能性の検討ー原子力災害発生時における避難手段としての活用性ー
中神 陽介	和田 清	堤防越流におけるブロックマット工法の洗掘防止効果に関する研究
中野 紗希	鈴木 正人	d 4 PDF の 4 °C 上昇実験による未来の夏季降雨の時間分布特性の予測
中村 佳樹	角野 晴彦	間欠供給運転の DHS リアクターによる産業排水処理
長屋 佑美	菊 雅美	UAV-SfM/MVS 測量による 3D モデル作成時の最適条件の検討に関する研究
西垣 亮平	鈴木 正人	d 4 PDF の過去実験における夏季降雨の時間分布特性の再現性の確認
原 美幸	角野 晴彦	グリコールエーテル系洗浄剤を含む電子産業排水の嫌気性処理
東 陽平	菊 雅美	一樣斜面勾配を有する直立護岸周辺の風が越波流量に及ぼす影響に関する研究
深尾 僚太郎	吉村 優治	簡易な地耐力測定方法の提案および表層地盤改良時の固化割合精度の検討
前野 航輝	廣瀬 康之	岐阜県外来生物情報システムの閲覧性と有用性の向上
松木 幹弥	川端 光昭	高齢運転者の自動車運転継続意思の形成要因
村上 颯太	和田 清	越美山系坂内砂防ダムにおける洪水流と魚道の堆砂制御に関する研究
山田 佳奈	角野 晴彦	産業排水を処理する 2 種類の DHS スポンジ担体の評価
山本 香穂	岩瀬 裕之	安全に配慮した材料実験のための動画教材の開発
山本 彩依	水野 和憲	能動的な土質試験を目指した教材開発
横山 栄光	鈴木 正人	わが国の都市域における夏季降雨の時間分布特性と気温の関係

● A

学生氏名	研究室	卒業研究題目
青井 凱飛	清水 隆宏	旧中山道大湫宿の町並みに関する研究ー 3D スキャンによる点群データを利用した町並み形状把握の基礎的研究ー
阿部 友理	青木 哲	建物鉛直面の遮蔽位置による入射熱量の相違に関する研究
荒井 優伽	小川 信之	拡張現実を用いた建築作品の表現方法の基礎的研究
安藤 さやか	犬飼 利嗣 上原 義己	コンクリートのフリーディング制御方法に関する基礎的研究ーモルタルのフリーディングに及ぼす使用材料と空気量の影響ー
石田 菜美	下村 波基	在来軸組構法の耐震性向上に関する実験的研究ー円形孔周辺の有限要素法による応力解析と実験結果との対応ー
井田 悠希	小川 信之	建築音響学による室内空間の波動シミュレーションー2つの音源の位置の違いによる音響特性の変化に関する基礎的研究ー

学生氏名	研究室	卒業研究題目
一色 寛登	鶴田 佳子	中山間地域における地域住民によるエリアマネジメントのための支援策についてー岐阜県郡上市明宝地域のケーススタディーー
伊藤 功多	鶴田 佳子	コペンハーゲン市ローカルプラン策定過程の住民参画システムにおける地域委員会の役割と活動実態に関する研究
伊藤 鈴乃	清水 隆宏	旧中山道大湫宿・旧森川義有邸の研究
岩田 匡平	犬飼 利嗣 上原 義己	フレッシュコンクリートのフリーディングと透水係数の関係に関する基礎的研究ーフレッシュモルタルのフリーディングと透水係数の関係に及ぼす使用材料と空気量の影響ー
大塚 彩乃	犬飼 利嗣 上原 義己	コンクリートのフリーディング制御方法に関する基礎的研究ー調査要因がモルタルのフリーディングに及ぼす影響ー
大橋 奎斗	青木 哲	レンチキュラー原理を用いた日射遮蔽手法に関する研究ー視野角と印刷の有無を利用した透過日射量への影響ー
奥山 翔	小川 信之	幾何音響を用いた体育館の音環境空間解析に関する研究ー室空間の内装材・音響設備の影響に関する考察ー
片桐 侑華	犬飼 利嗣 上原 義己	コンクリートのフリーディングと硬化後表層の透気性の関係に関する基礎的研究ーモルタルのフリーディングと硬化後表層の透気性の関係に及ぼす使用材料と空気量の影響ー
川本 佳奈	犬飼 利嗣 上原 義己	コンクリートのフリーディングと硬化後表層の透気性の関係に関する基礎的研究ー調査要因がモルタルのフリーディングと硬化後表層の透気性の関係に及ぼす影響ー
木村 祐太	鶴田 佳子	コペンハーゲン市におけるローカルプランの内容分析ーローカルプラン策定を伴う建築・開発プロジェクトの特徴ー
小寺 敬太	下村 波基	高力ボルト中における拡散性水素の挙動に関する解析的研究ー疑似亀裂の組込による高力ボルト接合モデル部内での亀裂の進展挙動ー
小森 智徳	櫻木 耕史	中山道大湫宿の地域特性と景観特性
後藤 壮	犬飼 利嗣 上原 義己	ジオポリマーモルタルに関する基礎的研究ーメタけい酸ナトリウムの添加方法と凝結遅延剤が圧縮強さ特性とフロー値の経時変化に及ぼす影響ー
齋藤 愛佳	今田 太一郎	都上八幡におけるセルフリノベーションの仕組みづくりーネットワークの視点から見た地域づくり手法に関する研究ー
佐藤 奏斗	青木 哲	幼稚園・保育所等における冬季のインフルエンザ対策と室内環境調整ー東北地方におけるアンケート調査と東海・北陸地方との比較ー
柴田 凌兵	今田 太一郎	重症心身障がい児施設における温湿度環境と音環境の実態把握
鷺見 勘太	小川 信之	幾何音響シミュレーションを用いたオープン型教室の音環境の研究ー教室の形状と材質の変化による音環境の研究ー
説田 十吉	小川 信之	幾何音響シミュレーションによる個室空間の研究ー個室トイレ空間の室形状・室材材の変化に関する研究ー
高田 皓堯	小川 信之	建築に関する技術者倫理の教材・学修環境の研究
辻 寛太	櫻木 耕史	中山道大湫宿の景観意識の現状と方向性に関する研究ーまち歩きとワークショップ実施による住民意識の把握ー
根本 一樹	鶴田 佳子	広域都市計画区域における市街化調整区域の土地利用に関する研究
野村 太地	犬飼 利嗣 上原 義己	ジオポリマーモルタルに関する基礎的研究ーフライアッシュの品種と凝結遅延剤の添加率が圧縮強さ特性とフロー値の経時変化に及ぼす影響ー
野村 日菜子	櫻木 耕史	アニメーション映像における階段部空間の大きさ感に関する研究ーウォルト・ディズニーのシンデレラを例としてー
長谷川 楓	下村 波基	高力ボルトのネジ山の噛み合わせに関する基礎的研究ーF15T ボルトの剛性評価のための FEM 解析と実験ー
早矢仕 啓太	犬飼 利嗣 上原 義己	フレッシュコンクリートのフリーディングと透水係数の関係に関する基礎的研究ー調査要因がフレッシュモルタルのフリーディングと透水係数の関係に及ぼす影響ー
林 幹也	今田 太一郎	個の活動を活性化させる仕組みー多核型地域ネットワークの視点から見たまちづくりの方法に関する研究ー
檀山 佳希	青木 哲	松阪市の小中学校における教室温熱環境の実測調査
古川 椋子	清水 隆宏	名古屋鉄道広見線の駅舎に関する研究
細野 竜一	清水 隆宏	岐阜県における明治初期木造小学校校舎の研究
松木 賢弥	今田 太一郎	多重刺激によって構成されるシーンのパターンー重度心身障がい児の生活環境のあり方ー
本村 梨乃	今田 太一郎	現場に立ち計画する事の意義に関する考察ーセルフリノベーションの計画論構築に向けた実践的研究ー
森 温輝	青木 哲	建物の鉛直面が受ける日射の遮蔽に関する研究ー2種類の引き上げ型ロールスクリーンによる違いー
横山 航平	清水 隆宏	羽島市庁舎の研究ー現存図面から考察する設計過程についてー
萬谷 蓮	今田 太一郎	多重刺激が重症心身障がい児に与える影響ー重症心身障がい児のための生活環境の在り方に関する実践的研究ー
若山 尚樹	下村 波基	高力ボルト接合される板要素の剛性に関する解析的研究ーボルトと座金を考慮した接合部モデルの FEM 解析と実験値との対応ー
渡邊 悠加	今田 太一郎	個が溢れ出す地域空間の設計
メサー	下村 波基	高力ボルトのエネルギー解放率に関する実験的研究ーF15T 級高力ボルトの水素誘起による遅れ破壊ー

卒業・修了証書授与式

第51回卒業証書・第22回専攻科修了証書授与式挙行

第51回卒業証書・第22回専攻科修了証書授与式が3月20日(火)午前10時から本校第一体育館で、近隣中学校の校長先生・本校教育後援会会長・同窓会(若船会)会長・名誉教授のご臨席及び卒業生・修了生の保護者が出席して挙行されました。

授与式は、校長の式辞に始まり、若船会会長の祝辞に続いて、卒業生・修了生を代表して電子制御工学科の岩切萌さんから答辞がありました。

卒業証書を授与された学生は、機械工学科37名、電気情報工学科47名、電子制御工学科40名、環境都市工学科40名、建築学科43名、合計207名、修了証書を授与された専攻科生は、電子システム工学専攻1名、先端融合開発専攻27名、合計28名でした。

また、卒業生一同より卒業記念品料414,000円の贈呈があり、機械工学科の後藤広太郎さんから目録の贈呈がありました。この卒業記念品料を含み、平成26年度からの積立金をもって学生会評議会の審議を経て、次の記念品が贈呈されました。

【平成16年度以降の卒業記念品】

平成16~20年度卒業生 第一体育館織絨 一式
平成21~25年度卒業生 ウォータークーラー 6台
平成26~29年度卒業生 ウォータークーラー 4台
アルミベンチ 8台

平成29年度岐阜工業高等専門学校学生表彰受賞者及び学会等表彰受賞者

区分	学科名	氏名	区分	学科名	氏名	区分	学科名	氏名
学業成績優秀賞	機械工学科	花崎 健太	精勤賞	環境都市工学科	松本 幹弥	課外活動優秀者賞	環境都市工学科	原 美幸
	電気情報工学科	川口 建人		建築学科	後藤 壮		〃	深尾 俊太郎
	電子制御工学科	畑中 佑斗		〃	松本 賢弥		〃	山本 香穂
	環境都市工学科	岡田 萌花		電気情報工学科	坂井 晴哉		〃	山本 彩依
精勤賞	建築学科	野村 太地	優良学生会指導者賞	電子制御工学科	嶋口 大輝	優良寮生会指導者賞	建築学科	青井 凱飛
	機械工学科	折戸 友香		〃	平澤 彦大		〃	後藤 壮
	〃	寺田 知弘		環境都市工学科	安藤 祐輝		〃	根本 一樹
	〃	服部 竜之介		建築学科	佐藤 奏斗		〃	森 温輝
	〃	花崎 健太	課外活動優秀者賞	環境都市工学科	安藤 祐輝	〃	渡邊 悠加	
	電気情報工学科	小野 拓海		機械工学科	有園 舜	電気情報工学科	杉原 萌真	
	〃	折戸 友美		〃	河野 真輝	〃	本田 凌理	
	〃	墨 啓希		〃	戸崎 太星	〃	松本 崇宏	
	〃	畑中 孝斗		電気情報工学科	伊禮 悠平	建築学科	井田 悠希	
	〃	林 隼也		電子制御工学科	大野 雄基	〃	古川 悠子	
	電子制御工学科	大野 喬史		〃	西脇 一輝	先端融合開発専攻	河崎 拳吾	
	〃	小島 良太		〃	吉田 泰一朗	〃	永井 孝英	
	〃	児島 亮平		環境都市工学科	相崎 結衣	〃	堀江 弘将	
	〃	柴田 あらた		〃	荒深 光左	(社)日本機械学会岐阜賞	機械工学科	川島 優介
	〃	土屋 充志		〃	岡田 萌花	電気学会東海支部長賞	電気情報工学科	畑中 孝斗
	〃	岡山 匡		〃	木村 大地	計測自動制御学会中部支部支部賞学業優秀賞	電子制御工学科	岩切 萌
	〃	畑中 佑斗		〃	桐山 友香理	全国高専土木学会近畿賞	環境都市工学科	桐山 友香理
	〃	山内 隼		〃	末松 杏介	土木学会中部支部支部長賞	環境都市工学科	大内 誠直
	環境都市工学科	岡田 萌花		〃	杉山 菜々子	土木学会中部支部支部長賞	先端融合開発専攻	服部 聖也
〃	佐村 駿太	〃	高井 幹太	岐阜県建築士会賞	建築学科	野村 太地		
〃	長屋 佑美	〃	中井 満輝					

平成29年度 若船奨学基金表彰・奨学助成申請一覧

区分	学科名	氏名	表彰理由
特別優秀学生賞	機械工学科	川島 優介	卒業研究及びその発表、または所属学科内の活動において、特に優秀と認められたため。
	電気情報工学科	藤田 茉佑	
	電子制御工学科	畑中 佑斗	
	環境都市工学科	長屋 佑美	
	建築学科	青井 凱飛	

区分	所属部	学科(専攻)名	氏名	表彰理由	区分	所属部	学科(専攻)名	氏名	表彰理由	
課外活動体育系(団体の部)	柔道部(男子)	-	-	地区高専体育大会 男子団体 優勝(25年連続)	課外活動体育系(個人の部)	陸上競技部	環境都市工学科	末松 杏介	全国高専体育大会 男子800m 2位	
	バドミントン部(男子)	-	-	全国高専体育大会 男子団体 優勝				原 美幸	全国高専体育大会 男子1500m 3位	
	バドミントン部(女子)	-	-	岐阜県学生柔道優勝大会 男子団体 優勝(7年連続)				後藤 壮	西日本高専駅伝大会 優勝	
	卓球部(女子)	-	-	地区高専体育大会 男子団体 優勝					全国高専体育大会 女子4×100m 3位	
	ラグビーフットボール部	-	-	地区高専体育大会 女子団体 優勝					地区高専体育大会 男子4×100m 優勝	
	バスケットボール部	-	-	地区高専体育大会 女子団体 優勝					地区高専体育大会 男子400m 優勝	
	陸上競技部(男子)*	-	-	地区高専体育大会 男子部 優勝				地区高専体育大会 男子4×400m 優勝		
	剣道部(女子)	-	-	地区高専体育大会 男子学校対抗 優勝				全国高専体育大会 男子110m H 3位		
	陸上競技部(女子)*	-	-	地区高専体育大会 女子学校対抗 準優勝				全国高専体育大会 男子400m H 2位		
	水泳部(男子)	-	-	全国高専体育大会 男子学校対抗 準優勝				全国高専体育大会 男子4×100m 2位		
水泳部	-	-	地区高専体育大会 男子総合 優勝	全国高専体育大会 男子4×400m 優勝						
			地区高専体育大会 総合 優勝	全国高専体育大会 男子3000m SC 3位						
課外活動体育系(個人の部)	柔道部	環境都市工学科	大内 誠直	地区高専体育大会 男子個人60kg級 優勝	ソフトテニス部	建築学科	森 温輝	地区高専体育大会 男子ダブルス 優勝		
	バドミントン部	建築学科	渡邊 悠加	地区高専体育大会 女子ダブルス 優勝	囲碁・将棋部	環境都市工学科	桐山 友香理	全国高専将棋大会 女子個人戦 3位		
	水泳部	機械工学科	河野 真輝	地区高専体育大会 女子ダブルス 3位				ESS	機械工学科	有園 舜
		電子制御工学科	大野 雄基	地区高専体育大会 男子100m背泳ぎ 優勝	全国高専英語プレゼンテーションコンテスト シングル部門 2位					
	卓球部	環境都市工学科	山本 香穂	地区高専体育大会 男子800mリレー 優勝	環境都市工学科 都市工学研究室・コンピュータ倶楽部	環境都市工学科	環境都市工学科	末松 杏介	「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会 第1会場 2位	
				地区高専体育大会 女子シングルス 優勝				前野 航輝	パテントコンテスト 優秀賞	
				地区高専体育大会 女子ダブルス 優勝				電子制御工学科	岩田 直樹	メフィコス駐車場チェックアート ドキドキ賞(2位相当)
				地区高専体育大会 女子ダブルス 3位						先端融合開発専攻
	地区高専体育大会 女子対抗戦 2位	全国高専プログラミングコンテスト 課題部門 最優秀賞								
	地区高専体育大会 男子円盤投 3位	全国高専プログラミングコンテスト 課題部門 パテント審査:奨励賞								
	陸上競技部	電子制御工学科	西脇 一輝	地区高専体育大会 男子総丸投げ 優勝	コンピュータ倶楽部	環境都市工学科	環境都市工学科	相崎 結衣	全国高校・大学ソフトウェア創作コンテスト ファンコミュニケーションズ賞	
				地区高専体育大会 男子やり投げ 優勝				-	-	全国高専デザインコンペティション 創造デザイン部門 審査員特別賞
				地区高専体育大会 男子4×100m 優勝						-
				地区高専体育大会 男子4×400m 優勝				-	-	
				地区高専体育大会 男子200m 2位						-
地区高専体育大会 男子4×100m 2位				鈴木 理央				大学編入・専攻科進学ガイダンスにおいて台格体験記を誌った		
地区高専体育大会 男子4×400m 優勝										
地区高専体育大会 男子800m 優勝										
地区高専体育大会 男子4×400m 優勝										
西日本高専駅伝大会 優勝										

卒業生・修了生進路状況

平成29年度卒業生・修了生の求人状況と進路の総括表

学科別	卒業生数			就職					進学			その他		
	男	女	計	求人数	求人倍率	就職者数			大学・専攻科進学者数			(専修学校・各種学校・研究生等)		
						男	女	計	男	女	計	男	女	計
機械工学科	35	2	37	680	35.8	18	1	19	17	1	18	0	0	0
電気情報工学科	41	6	47	547	27.4	15	5	20	26	1	27	0	0	0
電子制御工学科	38	2	40	624	31.2	18	2	20	20	0	20	0	0	0
環境都市工学科	25	15	40	285	10.2	19	9	28	6	6	12	0	0	0
建築学科	28	15	43	291	10.0	15	14	29	13	1	14	0	0	0
計	167	40	207	2427	20.9	85	31	116	82	9	91	0	0	0

専攻別	修了者数			就職					進学			その他		
	男	女	計	求人数	求人倍率	就職者数			大学院進学者数			(専修学校・各種学校・研究生等)		
						男	女	計	男	女	計	男	女	計
先端融合開発専攻 (機械・電気情報・電子制御)	14	0	14	496	45.1	11	0	11	3	0	3	0	0	0
先端融合開発専攻 (環境都市・建築)	11	3	14	186	18.6	7	3	10	4	0	4	0	0	0
計	25	3	28	682	32.5	18	3	21	7	0	7	0	0	0

※先端融合開発専攻(機械・電気情報・電子制御)に電子システム工学専攻を含む

平成29年度卒業生・修了生の進路状況

学科・専攻	本科 進学士						専攻科 学士	合計(人)	学科・専攻	本科 進学士						専攻科 学士	合計(人)						
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	環境都市工学科	建築学科	先端融合開発専攻 (環境都市・建築)				機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	環境都市工学科	建築学科	先端融合開発専攻 (環境都市・建築)			機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	環境都市工学科	建築学科	先端融合開発専攻 (環境都市・建築)
【建設業】						1	1	【輸送用機械器具製造業】										1	1				
㈱一条工務店								㈱NTTフィールドテクノ															
NECネットエスアイ㈱	1						1	㈱SUBARU	1									1	1				
㈱大林組		1		1			2	東レ・カーボンマジック㈱	1										1				
㈱奥村組			1				2	豊田合成㈱	1			1							2				
㈱カキト	1						1	ナブテスコ㈱岐阜工場	1										1				
コカエン지니어リングテクノロジ			1				1	本田技研工業㈱		1									1				
五洋建設㈱			1				1	小計	5	1			1						7				
三機工業㈱			1				1	【その他の製造業】															
西濃建設㈱			1				1	㈱タミヤ						1					1				
第一カッター興業㈱			1				2	任天堂㈱					1						1				
ダイダン㈱			2				2	ヤマハ㈱		1				1					2				
大和ハウス工業㈱			2				2	小計	1				2						3				
㈱竹中工務店			1				1	【電気・ガス・熱供給・水道業】															
戸田建設㈱		1	1				2	大阪ガス㈱		1									1				
トヨタT&S建設㈱			1				1	関西電力㈱		1			1						2				
日揮㈱		1					1	中部電力㈱	1	2	1	2	2						8				
SOUSEI㈱						1	1	東京ガス㈱		1		2	3						6				
小計	3	1	13			5	22	東邦ガス㈱				1	1						2				
【食料品・飲料・たばこ・飼料製造業】							1	小計	1	5	1	5	7						19				
サンリープロダクツ㈱		1					1	【情報通信業】															
小計	1						1	NHK 名古屋放送局			1								1				
【繊維工業、パルプ、家具・装備品製造業、印刷関連業】							2	アイシン・コムクルーズ㈱					1						1				
(独)国立印刷局		1	1				2	エイトピー㈱				1							3				
小計		1	1				2	㈱白組			1								1				
【化学工業】							2	スターインフォテック㈱		1									1				
旭化成㈱	1	1					2	中部国際空港情報通信㈱			1								1				
㈱メニコンネクト		1					1	デンソーテクノ㈱					1						1				
小計	2	1					3	㈱トウ・ステップ			1								1				
【窯業・土石製品製造業】							1	ドコモCS 東海㈱			1								1				
日本特殊陶業㈱	1						1	ネクストウエア㈱		1									1				
小計	1						1	㈱富士通マーケティング		1									1				
【金属製品製造業】							1	小計	3	5	1	2							11				
㈱可児LILサウンエ製作所			1				1	【運輸業・運輸に付帯するサービス業】															
新日鐵住金㈱			1				1	東海旅客鉄道㈱	2		1	3	1						7				
㈱LIXIL	1						1	中日本高速道路㈱			1	1							2				
小計	1		2				3	日本航空㈱				1							1				
【はん用・生産用・業務用機械器具製造業】							1	日本貨物鉄道㈱	1										1				
エミック㈱		1					1	小計	3	1	4	3							11				
キヤノン㈱	1						1	【卸売業・小売業】															
神鋼造機㈱		1					1	アマゾンジャパン㈱			1								1				
ダイキン工業㈱	1						1	小計		1									1				
㈱NAITO		1					1	【専門・技術サービス業】															
フジテック㈱		1					1	エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)			2								2				
三菱日立ホームエレベーター㈱			1				1	㈱オリエンタルコンサルタンツ			1								1				
小計	1	2	4				7	川重岐阜エンジニアリング㈱				1							2				
【電子部品・デバイス・電子回路製造業】							1	(公財)岐阜県建設研究センター			2								2				
浜松ホトニクス㈱	1						1	㈱新日			1								1				
小計	1						1	ソニーLSIデザイン㈱			1		1						2				
【電気・情報通信機械器具製造業】							1	(一社)中部地域づくり協会			1								1				
サンリツオートメーション㈱		1					1	中菱エンジニアリング㈱	1										1				
ソフコエレクトロロジック㈱		1					1	㈱テイク					1						1				
セイコーエフソン㈱	1	1					2	㈱デザインボックス			1								1				
ソニエローパルマニョファク		1					1	中日本建設コンサルタンツ㈱			1								1				
チャレンジ&オペレーションズ㈱		1					1	三菱電機エンジニアリング㈱		1			2						3				
パナソニックアプライアンス社		1					1	小計	1	1	6	3	4	1	16				16				
V A I O㈱	1						1	【専攻科】															
小計	2	3	2				7	岐阜工業高等専門学校			6	9	6	4	7				32				
								舞鶴工業高等専門学校			1								1				
								小計			7	9	6	4	7				33				
								合計			37	47	40	40	43	14	14		235				

退職教職員あいさつ



退職のご挨拶

一般科目（人文） 阪上 弘彬

この度、私が生まれ育った故郷、兵庫県に戻ることになりました。右も左もわからないまま岐阜高専に着任しましたが、日々、多くの方々に支えていただき、仕事をすることができました。わずかな期間でしたが、技術者の養成に携わる高専で社会（地理、倫理）を教える機会をいただけたこと、また社会を学習する学生の姿勢・様子を見て、私自身学んだこと、そして岐阜高専の教員として教育活動、研究に従事できたこと、これらの経験を糧に新天地でもより一層努力する所存です。最後になりましたが、教職員と学生の皆さまのご健勝とご活躍、岐阜工業高等専門学校のますますのご発展をお祈り申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。



退職のあいさつ

電子制御工学科 長南 功男

企業では電子回路に関連した製品を開発設計しておりましたので、その経験をもとに岐阜高専の学生のみなさんの勉強に貢献できればと思って教えてきました。幸運にも着任以来今日まで電気回路の授業をずっと継続して担当することができました。また電子回路を教える機会も学科から与えていただいたことに、感謝をしております。学生の授業評価のコメントとしては、理解できた、役に立ったという好意的なものが多かったと思いますが、中には厳しいコメントもあり、人に教えることの難しさは最後まで変わらず感じ続けています。

ある哲学者が「言葉の意味はその使い方で決まる」と言っています。コミュニケーションでは、言葉を使った側と、聞いて解釈した側とがあり、SNSなどでよくあるように意思が疎通しあったり、誤解が生じたりします。授業で学んだテクノロジーもまた、それで皆さんがどのようなものを作るか、またそれがどのように使われるかによって、善にも悪にもなりうるものです。そこがテクノロジーの恐ろしい一面でもあります。岐阜高専で学ばれたことがよりよい方向で使われることを祈っております。



退職の挨拶

建築学科 下村 波基

弟子のアーナンドが「善き友を持ち、善き仲間と共にある」ことが将来的な解脱への道の端緒であろうかと控えめに問いかけると、仏陀は病や老いからの自由、そして死からの解脱のためには「それが全てである」と返答したとあります。人はすべからず我が身を置く環境に影響されます。私は高専に着任して、多くの校務分掌を手がける中で多くの先生方と交わることができ、老若にかかわらず、多くの手本となる考え方・精神（時には反面教師としても）を学ぶことが出来ました。とかく専門に陥りやすい職種にあって、この高専という学科横断的横の繋がりを持つことの出来る環境は、私にとってありがたいものでした。諸先輩の中には既に鬼籍に入られた方もあり、寂寥たる思いに駆られます。しかし、この33年目の最期の年にも、若鮎会を通して学科と年齢を超えた卒業生とも関わる機会を持つことが出来ましたことも感謝しております。

長い間お世話になりました

技術専門職員 高橋 克彦

28年前、民間企業から転職し本校に採用されこのたび定年退職となりました。在職中は教職員の皆様に、大変お世話になり、改めて厚く御礼申し上げます。学生たちと徹夜でエコラン作り、つくばの全国大会参加、ここ数年は小水力発電コンテスト学生たちと参加など多くの人に出会い関わることができ私一番の思い出です。また、炎天下での高専体育大会の設営、2、3月には寒期中、入試業務等で駐車場整理など初めてのことが多く苦労もありましたが、いまではいい思い出です。

最後に、皆さまのご健康とご多忙をお祈りし、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

高専祭（専門展）

技術や知識よりも

機械工学科 第4学年 田中 寛人

私たち機械工学科は4月から専門展の準備を開始しました。この事に関しては他学科よりも早かったと思います。しかし、夏休みが終わって高専祭が近くなってくると全行程の半分も終わっていないという現実がありました。原因は準備時間への異常な参加率の低さと数名の作業放棄による展示品制作の遅れでした。夏休みも準備をしていましたが参加率は平均してクラスの約7%でした。高専祭当日に間に合わないのは明白でした。しかし、その中でも熊田君をはじめとするクラスメイトのおかげで完成まで漕ぎつけることができました。私はこの経験から、技術や知識ばかりが全てではないと考えさせられました。

最後になりましたが材料提供や技術指導をしてくださった先生方には厚く感謝申し上げます。



専門展での学び

電気情報工学科 第4学年 山田 啓允

私は、クラスの代表として専門展に参加しました。製作は3班に分かれて行いました。当初は参加に積極的な人と消極的な人に分かれていましたが、公開2週間ほど前になると、それぞれが協力し合い、活動も活発になっていきました。特にブースを作るときに、ほぼ全員が指示に従って積極的に行動していたのが印象的です。しかし当日を迎えても、一つの班の展示がうまくいかず、発表は物足りないものとなってしまいました。また、展示間の連携も悪く、多くの方を待たせてしまいました。

うまくいかなかった班も含め、クラス全員が高い意識をもって臨めたことがクラスにとっての収穫だと思います。また、技術的な知識はもちろん、チーム製作という重要な経験ができました。この経験は社会に出ても忘れないようにしたいです。



高専祭（専門展）

電子制御工学科 第4学年 水野 優希

今までバザーなどクラスの取り纏め役を行っていましたが、今回の専門展は比べものにならないほど大変でした。製作テーマの変更などで、予定していた進捗状況に比べ遅く、不安の毎日でした。しかし妥協はせず、プレゼンにおいても、もう一人の纏め役である星野くんを筆頭に、一般の方にもなるべく伝わり易いように多々修正を行いました。こうした皆の努力のおかげで、校長賞技術部門最優秀賞を頂くことができました。

今回の専門展を通して、プロジェクトを成し遂げることがいかに大変であるか、仲間との情報共有の大切さ、進捗状況や予算などの適格なマネジメントの大切さを学ぶことができ、とても良い経験と思い出になりました。



一丸となった専門展

環境都市工学科 第4学年 伊藤 広大

私たちは「グリーンインフラ」をテーマに発表を行いました。仲間同士の支えあいの下、プレゼンテーション賞、総合賞、一般投票賞の三部門で賞をいただきました。一般投票賞では、他のクラスより約3倍の投票数を獲得しました。環境都市工学とは市民のための工学であるため、多くの一般票を獲得できたことは私たちの誇りです。

今回は普段聞きなれない「グリーンインフラ」という言葉を皆さんにより理解していただくため、視覚に訴えかける模型を心掛けました。特に専門展史上最大級の巨大ジオラマでは細部にまで工夫を凝らし、多くの方に喜んでいただけました。

当日を迎えるまで様々な意見のぶつかり合いがあり、決して楽な道のりではありませんでしたが、この仲間専門展を無事に終えることができ良かったです。



「俺たちのザ・ベスト省エネな住宅」を提案

建築学科 第4学年 安達 晃佑 桂川 太一

建築学科の専門展では、省エネルギー住宅について発表しようと思いました。

実際に調べて中で、省エネについて把握する難しさを痛感しました。専門展でのプレゼン内容、掲示物、木造の建物等を作っていく中で、最初は少人数での作業がほとんどでした。しかし、本番が近づくにつれて協力者が増えていき、最後はクラス全員が協力して4Aの専門展を完成させることができました。本番でも、それぞれ個人が互いに助け合ってプレゼンをより良いものにしていました。専門展を通して一つのものを作ることでクラスや個人として成長することができました。最後に、専門展で資料、機材、材料の提供・指導をして頂いた専門家の方、先生方に大変お世話になりました。深く感謝しております。



研修旅行 4年

研修旅行を終えて

機械工学科 第4学年 小林 光希

僕たち機械工学科は、本巣市から神戸港を経てフェリーに乗り、九州に入り熊本城や太宰府天満宮といった、たくさんの観光名所を散策していきました。あまりにも壮大な旅で、紙面にはとても書ききれません。そのため印象に残った部分だけ書いていきます。

旅の途中ではヤンマーミュージアムや大阪造幣局、サントリー九州熊本工場などを見学させていただきました。そこでは社員の方々のモノづくりに対する熱意を感じることができました。

旅先で様々なところを回り一人一人がそれぞれ様々なことを感じ、とても心に残る旅行となりました。このように僕たちが旅を楽しめたのはこの旅行に携わった方々のおかげです。協力して下さった方々に感謝します。



4年研修旅行

電子制御工学科 第4学年 松浦 光希

電子制御工学科の研修旅行は、天候に恵まれ充実したものとなりました。視察としてTOTO サニテクノさんの工場見学をさせて頂きました。普段当然のように使っているトイレには、私たちが知らなかった高度な技術が使われており、感動しました。もう一つの視察は安川電機本社工場で、ロボットによるロボットの製造ラインを見学させて頂きました。その後行くことになるハウステンボスに、ここで製造されたロボットがレストランの料理ロボットとして稼働していることを知り、驚きました。自由旅行ではクラスメイトと沖縄へ向かい、スキューバダイビングなど楽しみました。

この研修旅行を通じて、クラスとの仲をより一層深められたかなと思います。



研修旅行を終えて

私たち建築学科は、福岡・長崎に行きました。

1日目は、ハウステンボスを訪れ、アトラクションや美しいイルミネーションを満喫しました。宿泊した変なホテルでは、ロビーにロボットが設置され、チェックアウトはそのロボットがしてくれました。とても近未来的で感動しました。

2日目は、長崎港ターミナルや、グラバー園、軍艦島に行きました。軍艦島では、今までに見たことのない景色に圧倒されました。

3日目は、武雄図書館、太宰府天満宮へ行き、夜にはテーブルマナー講習を受けました。武雄図書館は、デザイン性に優れており、とても刺激を受けました。

この研修旅行では、普段行くことのできないところに行くことができ、貴重な経験となりました。また、今まで以上にクラスの中も深まり、とてもいい旅行となりました。高専生活もあと1年となりましたが、クラスの仲間との時間を大切にしていきたいです。

研修旅行を終えて

電気情報工学科 第4学年 今井 恭平

私たち電気情報工学科は九州へ行きました。1日目は、トヨタ産業技術記念館を見学した後九州まで移動し、2日目は、福岡ヤクルト工場を見学しました。2日目は天候には恵まれませんでした。それ以降は天候に恵まれました。3日目は長崎市内を観光し、原爆の悲惨さを学んだり、江戸時代に外交が盛んだったということから洋風の歴史的な建物などを見学しました。

高専生活の中で大きな行事である研修旅行ですが、トラブルもなく楽しく過ごすことができ本当に良かったです。お世話頂いた皆様方、ありがとうございました。



研修旅行報告

環境都市工学科 第4学年 大野 可南子

11月7日から10日の3泊4日で高専生活の楽しみの一つである研修旅行で九州に行ってきました。

1日目は福岡県の北九州にある門司港レトロと福岡県と山口県の県境にある関門トンネルに行きました。門司港レトロの散策は、はね橋を見ることができ、橋梁好きの方にはオススメのスポットでした。関門トンネルは、クラス写真を撮ったり、クラスみんなで長いトンネルを歩いたり、クラスの仲を深められるスポットでした。ホテルで受けたテーブルマナーはみんなガチガチでした。

2日目はコマツ lot センタと九重夢の大吊橋に行きました。コマツ lot センタでは、ICT 建機やドローンの見学をして、その性能を目の当たりにしてきました。九重の大吊橋では紅葉で山が色づいているのもあり、大吊橋から見る景色がとても綺麗でした。また、揺れる吊橋を全員が身をもって体験しました。

3日目は鰻を食べてから、柳川川下りの体験をしました。鰻はとても美味しかったです。

最終日は九州国立博物館へ行き、太宰府に行きました。太宰府ではみんな第一志望の進路先へ行けるように祈願したと思います。

この4日間はどの日をとっても、内容が濃く楽しい時間を送ることができました。



建築学科 第4学年 山崎 佳奈



学生受賞等

「計測自動制御学会中部支部若手研究発表会 優秀発表賞」を受賞して

先端融合開発専攻 2年次 永井 孝英



2017年11月30日にトヨタ産業技術記念館で開催された計測自動制御学会主催の「SICE 中部支部オープンラボ・若手研究発表会」において優秀発表賞を受賞しました。大学生・大学院生・先生方等を交えての発表会は更なる成長の場となりました。題目は「2次元システム制御理論による自動注湯機の最適学習制御」です。溶かした金属を型に流し込み冷やして固める製造法である鋳造の注湯工程を自動化し注湯流量の最適制御を行った内容でポスター発表しました。鋳造現場において自動化は職場環境の改善、効率化、作業者を選ぶ必要がないといったメリットが生まれると感じております。今回の受賞においてお世話になりました主催者の計測自動制御学会中部支部の皆様、御指導頂きました先生方には深く感謝申し上げます。

国際会議 ICEMS2017にて、“Best Paper Award, The Third Prize”を受賞して

先端融合開発専攻 1年次 馬淵 俊弥



▲シドニーオペラハウス前にて

私は、専攻科において、地球温暖化やエネルギー問題の解決に貢献する高効率なモータを自動車などの産業に応用しやすいようなシステムを構築し、そのシステムを用いてモータを制御する研究を行っています。

私は、今までの研究成果を、平成29年8月、オーストラリア、シドニーで開催された、IEEE (米国電気電子学会) Industry Applications Society が Technical Co-Sponsor である 国際会議 “20th International Conference on Electrical Machines and Systems (ICEMS2017-Sydney)” において、オールセッションにて2件の論文の発表を行い、内1件の論文は、私と指導教員である電気情報工学科教授 富田睦雄先生、本校技術室技術長 (電気情報工学科オフィス) 加藤真二先生、および他4名の研究グループで「Best Paper Award, The Third Prize」を受賞しました。今回の受賞を励みに、これから一層精進していきたいと思っております。最後に、ご指導いただいた先生方、先輩方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

「DICOMO2017優秀プレゼンテーション賞を受賞して」

先端融合開発専攻 1年次 藤澤 功

私は2017年6月に行われた DICOMO2017シンポジウムに発表者として参加しました。学会に参加したのは初めてで、色々な刺激を受けました。研究発表では多くの方々に助言を頂き、大変嬉しく思います。事前にしっかり練習した成果を出せ、結果としてプレゼンテーション賞を受賞することができ、今後の励みとなりました。学会中では様々な観点から多種多様な研究発表がされており、それらを聞くことで自身の視野を大きく広げることができたと思います。

提出した論文に関して比較手法などのアドバイスも頂き、まだまだ改善する余地がありました。今回の受賞で満足せず、今後はプレゼンテーションだけでなく、論文でも受賞できるように研究を続けていこうと思います。

「メディコス駐車場チョコレート」ドキドキ賞を受賞して

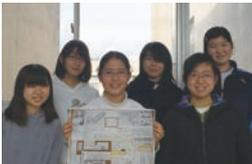
建築学科 第2学年 安江 脩夏



「ものづくりリテラシー教育実習」の活動として、環境都市工学科の前野航輝さん、宮下侑莉華さん、脇田裕里さん、傍嶋遥音さん、中村美沙希さん、若原巧美さんと共に、ぎふメディアコスモスで10月15日に開催された「メディコス駐車場チョコレート」に参加しました。アスファルトの駐車場が新市庁舎用地となるためチョコレートで埋めようとの趣旨でした。少雨の中、防災減災班として「絆」をテーマに、私がデザイン原画を担当し2両分サイズのアートを完成させました。ぎふメディアコスモスのテーマ「フム・ドキ・ワイ」にちなみ、フムフム賞・ドキドキ賞・ワイワイ賞の3賞が表彰され、参加130組、約550人の中から、ドキドキ賞 (実質2位) を受賞しました。皆様に感謝いたします。

建築甲子園 青年委員長特別賞を受賞して

建築学科 第3学年 松岡 佑依、山下 明日香、桐山 日菜子、豊村 日菜、細川 貴子、牧野 圭希



私たち6人は、担任の今田先生を監督としてチームを組み、第8回建築甲子園に参加しました。今年のテーマは「地域のくらし 一空の家を生かす」でした。そこで私たちは北方町商店街に目を向け、寂れた雰囲気のある場所に活気を呼び戻すことができるような空間作りを目指しました。

放課後、1人1人が考えたアイデアを持ち寄り、何度も議論を重ね、夏休みには初めての現地調査も経験し、より理解を深めることができました。その結果、私たちの作品「本家」は、岐阜県代表として全国大会に出場し、青年委員長特別賞を受賞しました。

これからも意欲的に様々なコンペ等に参加していきたいです。

日本科学未来館賞を受賞して

建築学科 第2学年 長野 雅



私は、「五重塔はなぜ倒れないのか」ということを研究しました。この研究では、五重塔の秘密を解明するために、1/70の概略模型を制作し、様々な周波数・振動数、そして実際の地震データで揺らす実験を何度も行いました。まだ、2年生で専門知識が少ない私にとって、この研究は厳しいと感じることもありました。しかし、理解するのに難しいことを自力で調べたり、聞いたりして理解することでより一層達成感を感じることができました。そして、「日本科学未来館賞」をいただき、とてもうれしかったです。それと同時に、この研究をやってよかったと心から思いました。この経験を、これから専門を学ぶ上で活かしていきたいです。

「Microsoft Imagine Cup 2017」に出場して

先端融合開発専攻 2年次 西中 智樹



私は、昨年 Microsoft Imagine Cup 2017に参加しました。昨年11月より、学外の大学生、大学院生とチームを組み、BOTIO (ボティオ) と呼ばれる自分にパーソナライズされたラジオを製作しました。その後、1次選考、2次選考を経て、昨年3月上旬10組のみが参加できる日本予選大会に出場しました。日本予選大会では、世界大会と同様に英語によるプレゼンテーションと作品展示を行いました。世界大会に進むことはできませんでしたが Imagine Cup、は本当に魅力的な大会で、実際に出場してみて多くの学びがありました。

通常のハッカソンなどとは違ってこれだけ長い期間、チームで開発する機会というのは貴重な経験だと思います。

気象予報士試験 (第48回) に合格して

電気情報工学科 第4学年 山田 啓允



私は平成29年度第1回 (通算第48回) 気象予報士試験を受験し、合格しました。気象予報士とは、テレビなどで天気情報を伝えてくれる方々のように、気象に関する知識を持ち、気象現象の予想を的確に行うに足る能力があると認められた人に与えられる資格です。気象の勉強を始めた理由は、どうして雨が降るのか、どうして天気予報ができるのかなど、素朴な疑問をいくつも持ったことで天気に対する興味がわいたからです。この勉強を本格的に始めたのは高専1年の時でした。学び始めたころから新発見ばかりで、興味が尽きることはありませんでした。そして試験を受けましたが、やはり合格率5%程度の超難関試験、何度挑戦しても不合格でした。ようやくこの回になんとか合格することができました。

諦めず学び、挑戦し続けたことで合格できたと思います。今後も、日々進化する気象予報を有資格者として学んでいきたいです。

教職員受賞コメント

筑波英語教育学会と私



一般科目 (人文) 佐竹 直喜

2016年、筑波英語教育学会において、「Demotivational Reduction Through Goal Setting in EFL Learning」という論文で、第19回筑波英語教育学会新人賞佳作論文を受賞しました。筑波英語教育学会とは、1979年に発足したもので、筑波大学修士課程教育研究科の英語教育コースが母体となっています。主に本コースの修了生・在学生で成り立っているものですが、それ以外の誰でも会員になることができ、広く開かれた学会です。

私が本コースに在学していた時から、何度か本学会に論文を投稿し、研究者としての基礎を固めさせていただきました。当時新人賞というものから私の力は程遠く、本学会の新人賞受賞は難関でした。高校教師時代も他の学会を含め投稿を続けながら、やっとのことで佳作をいただくことができました。英語学習の動機づけにおいて、動機減退という観点から、その動機減退を軽減するためにどういった方法が効果的か本論文を含め模索していますが、今後も研究を続け英語学習の在り方につなげていきたいです。

電気学会基礎・材料・共通部門賞を受賞して

機械工学科 本塚 智

本賞は2年前から取り組んでいる鉄系軟磁性体の研究に対していただきました。この磁性体の応用先はモータ用の鉄心材料で、私の研究はモータに流れる電流が効率よく磁束に変換されるように鉄の結晶方位を制御することです。本研究の最初の目標は粉末冶金と呼ばれる製法に用いられる鉄と黒鉛の複合粒子を創出することでした。粉末冶金は金属の粉末を圧縮、成形後、焼き固めて所望の製品を得る手法で、自動車のエンジンのカムシャフトや高圧燃料ポンプの要素部品の製造技術として知られています。それが、ちょっとした閃きからモータ用の材料開発に繋がりました。機械系の私が電気学会から賞を頂けたのは、岐阜大学をはじめ、お世話になった先生方のご尽力の賜物と考えております。今後も分野を問わず、精力的に研究の応用分野を開拓し、高専らしい、社会に役立つ研究を推進していく所存です。

電気学会優秀技術活動賞技術報告賞を受けて

電気情報工学科 所 哲郎

設立130年の歴史を誇る電気学会から各専門分野の技術報告が刊行され、平成29年末には第1,413号が発行されています。所は平成22年からのポリマーがいし関係の調査専門委員会に幹事として携わり、その成果を技術報告第1,383号にまとめる事ができました。この技術報告に対して平成29年度に栄誉ある賞を電気学会から頂く事ができました。

電気学会技術報告には、平成4年の第408号の一部の執筆に携わったのが最初で、その後、第593号、第694号、第948号、第1,071号、第1,325号と続き、今回の受賞に到っています。全国の大学・企業・研究機関の約30の委員の一人に選ばれ、岐阜高専での約30年間の調査研究成果が評価されたことを、本校関係者として誇りに思います。

「土木学会中部支部優秀研究発表賞」を受賞して

環境都市工学科 菊 雅美



平成29年3月3日に金沢大学で開催された平成28年度土木学会中部支部研究発表会において、平成28年度土木学会中部支部優秀研究発表賞をいただきました。受賞した研究発表の題目は、「UAVによる空撮画像から礫の粒径分布を算定する手法に関する一考察」です。近年、UAV（ドローン）が何かと世間を賑わしています。ニュースではよくない話題ばかりが目立ちますが、災害現場での状況把握や構造物の状態把握など、様々な場面でのUAVの活用が広がっています。その中でも、短時間・低労力で高精度な結果を得られることから、UAVを用いた現地測量が注目を集めています。研究発表会では、UAVによって現地測量を行うだけでなく、UAVにより撮影した画像の特徴を活かし、画像から礫の粒径分布を算定するとともに、その精度検証を行い、粒径の算定に必要な条件を明らかにしたことが評価されました。今回の受賞を糧に、より一層、研究活動に邁進する所存です。

「日本建築学会九州支部建築九州賞研究新人賞」、「コンクリート講演会年次論文奨励賞」を受賞して

建築学科 上原 義己



平成28年度の第56回日本建築学会九州支部研究発表会の施工・材料部門（論文題目：3次元MPS法を用いた材料分離シミュレーション手法の提案）において、日本建築学会九州支部建築九州賞研究新人賞を受賞することができました。また、公益社団法人日本コンクリート工学会主催の「コンクリート工学年次大会2017」（論文題目：3次元MPS法および材料分離モデルによるフレッシュコンクリートの粗骨材偏在シミュレーション）において、コンクリート講演会年次論文奨励賞を受賞することができました。

上記の二編は、いずれもコンクリートの流動シミュレーションに関する研究で、今回の論文は基礎研究の段階ですが、本研究を進展させることでコンクリートの流動性を定量的に評価し、合理的なコンクリートの打設手順や施工不良の予測が可能になると考えております。今後も同研究を継続しながら、発展させられるよう尽力いたします。

校内ニュース

平成30年度入学者選抜検査

平成30年度入学者選抜検査を次のとおり実施しました。

- 推薦**／願書受付：1月9日(火)～1月12日(金)必着
選抜検査：1月20日(土)面接
内定発表：1月24日(水)
- 学力**／願書受付：1月29日(月)～2月2日(金)必着
選抜検査：2月18日(日)理科、英語、数学、国語
検査会場：本校、名古屋
- 帰国子女特別選抜**／願書受付：1月9日(火)～1月12日(金)必着
選抜検査：1月20日(土)面接(口頭試問(数学、理科、英語)含む)
内定発表：1月24日(水)
- 合格発表**／2月23日(金)10時(推薦選抜、帰国子女特別選抜合格内定者含む)

学科名	内訳 定員	志願者数				倍率 (帰国子女を除く)	合格者数
		推薦	帰国子女	学力	計		
機械工学科	40	12(1)	0(0)	58(0)	70(1)	1.75	42(1)
電気情報工学科	40	19(4)	0(0)	59(5)	78(9)	1.95	42(5)
電子制御工学科	40	23(3)	0(0)	62(1)	*85(4)	2.13	42(3)
環境都市工学科	40	27(13)	1(0)	44(10)	*72(23)	1.78	43(14)
建築学科	40	27(16)	0(0)	77(28)	*104(44)	2.60	41(26)
合計	200	108(37)	1(0)	300(44)	409(81)	2.04	210(49)

() 内は女子で内数。

*電子制御工学科、環境都市工学科、建築学科の志願者数計は推薦による選抜の結果、不合格となり、学力検査による選抜を志願した16名を含めて表示。

平成30年度学生会役員



【前列】

- ①副会長 中畑 列賢
②会長 柳田 大地
③校長 伊藤 義人
④学生主事 久保田 圭司

【後列】

- ⑤体育局長 山田 智博
⑥報道局長 水谷 嘉宏
⑦風紀局長 山口 拳生
⑧文化局長 小倉 大将
⑨会計局長 木戸 俊佑
⑩書記局長 日比野 輝也

平成29年度後期寮生会役員

後期寮生会役員は9月の後期寮生会役員研修で決定した方針と計画のもとにクリスマス会、スキー研修、成人祝賀会等の行事を実施し、雄志寮の運営を務めてきました。

役職名	学年	学科	氏名
寮長	4	C	中畑 列賢
副寮長	4	M	日比野 輝也
書記長	4	D	木戸 俊佑
広報委員長	3	E	森 晴樹
会計委員長	4	A	柳田 大地
厚生委員長	4	A	水谷 嘉宏
文化委員長	3	C	佐々木 洸弥
企画委員長	3	M	服部 右京
会計監査	3	E	橋本 凌

副校長(寮務主事) 麻草 淳

役職名	学年	学科	氏名
会計監査	3	A	酒匂 大輝
A寮総代	3	A	後藤 建太
B寮総代	3	E	青木 颯
C寮総代	3	M	大塚 友貴
D寮総代	4	D	山田 智博
第1女子寮総代	4	A	木村 彩乃
第2女子寮総代	4	A	山崎 佳奈
留学生寮総代	4	A	ソベアック
選挙管理委員長	4	D	野々田 崇大

第56回東海地区国立高等専門学校体育大会

主管校 沼津工業高等専門学校

種目担当校	実施種目(16種目)	実施日
沼津	陸上競技	6月30日(土)・7月1日(日)
	テニス	6月23日(土)・6月24日(日)
	空手道	7月7日(土)
	バスケットボール	7月7日(土)・7月8日(日)
鈴鹿	ソフトテニス	6月30日(土)・7月1日(日)
	バレーボール	6月30日(土)・7月1日(日)
	弓道	7月7日(土)
岐阜	バドミントン	6月30日(土)・7月1日(日)
	サッカー	7月7日(土)・7月8日(日)
	ハンドボール	7月7日(土)・7月8日(日)
鳥羽	硬式野球	6月30日(土)・7月1日(日)
	雨天順延：予備日	7月2日(月)・7月3日(火)
	卓球	6月30日(土)・7月1日(日)
豊田	柔道	7月14日(土)・7月15日(日)
	剣道	7月14日(土)・7月15日(日)
	水泳	6月30日(土)・7月1日(日)
	ラグビーフットボール	10月27日(土)

第53回全国高等専門学校体育大会

担当校：北九州工業高等専門学校

開催校	競技種目	競技日程
熊本(八代)	陸上競技	8月18日(土)～19日(日)
熊本(熊本)	バスケットボール	男子 9月1日(土)～2日(日)
		女子 9月1日(土)～2日(日)
久留米	バレーボール	男子 8月25日(土)～26日(日)
		女子 8月25日(土)～26日(日)
有明	ソフトテニス	8月29日(水)～30日(木)
北九州	卓球	8月25日(土)～26日(日)
大分	柔道	8月25日(土)～26日(日)
久留米	剣道	8月22日(水)～23日(木)
都城	硬式野球	8月21日(火)～23日(木)
佐世保	サッカー	8月18日(土)、19日(日)、21日(火)、22日(水)
神戸市立	ラグビーフットボール	1月4日(金)、5日(土)、7日(月)、9日(水)
沖縄	ハンドボール	8月21日(火)～22日(水)
大分	テニス	8月21日(火)～23日(木)
鹿児島	バドミントン	8月25日(土)～26日(日)
佐世保	水泳	9月1日(土)～2日(日)

第55回東海地区国立高等専門学校体育大会成績結果

競技名	成績
ラグビーフットボール	優勝 全国大会に出場したが2回戦で敗退となった。

コンテスト報告

アイデア対決・全国高専ロボコン2017 東海北陸地区大会成績結果

競技課題	成績
大江戸ロボット 忍法帳	Aチーム NOBU.gif (ノブ、ジフ) 初戦敗退 Bチーム 柿's (カキーズ) 初戦敗退

「高専ロボコン2017報告」

ロボット研究会 顧問 田島 孝治



高専ロボコン2017は、10月15日に東海北陸地区大会が三重県伊勢市で、全国大会は有明コロシアムで12月3日に行われました。30周年記念大会ということで全国大会の様子は生中継されるなど大いに盛り上がりました。

岐阜高専からは、東海北陸地区大会に3年生をリーダーとするAチームが作ったロボット「Nobu.gif」と、昨年度も地区大会に参加している4年生をリーダーとするBチームが作ったロボット「柿's」が出場しました。テストランでは両ロボット共に順調な仕上がりで、当日も期待されていましたが、残念なことに両ロボットとも初戦敗退となってしまいました。当日の人が詰めかけた会場は通信規制がないため、多くのチームがテストランでは起きなかった通信障害に苦しめられる大会でした。本校チームもこの過酷な環境までは想定していなかったのか、ロボットが突然操縦不能となり暴走する残念な結果となってしまいました。この課題に取り組み、ぜひ全国大会までコマを進められるよう、来年に向けて既に学生は作戦会議に入っています。どうぞ、今後とも応援いただけますようよろしくお願い申し上げます。

第14回全国高専デザコン2017 in 清流の国ぎふ

副校長(研究主事) 和田 清



開会式

第14回全国高専デザインコンペティション(以下、デザコン)は、岐阜高専が主管のもと、2017年12月、じゅうろくプラザにおいて開催されました。メインテーマは、「デザインが天下を制する」であり、織田信長公の「岐阜」命名から丁度450年の節目となり、「新たな天下=新たな社会像」の課題解決策を提案する機会として選ばれました。

各部門(空間、構造、創造、AM、ブレデザコン)では、熱戦が繰り広げられ、戦国武将隊による応援団や中学生による太鼓生演奏などが功を奏し、デザコン参加学生を活気づけました。本校は、創造部門：審査員特別賞、ブレデザコン部門：優秀賞(JST 理事長賞)に輝き、また、構造部門では、デザコン史上初の海外参加(モンゴル合同高専チーム)があり、また、ベトナム中部土木大学からの視察団も受け入れました。本大会は、総数1,200名以上(運営スタッフ約200名を含む)の多くの方々に参加していただき、成功裡に終えることができました。今後、これらの経験を活かして、教育・研究・社会連携活動に役立てたいと考えています。



空間デザイン部門



創造デザイン部門



構造デザイン部門

第11回全国高専プレコンに関する報告と謝辞

機械工学科 第5学年 有菌 舜



本大会では地球外知的生命体の存在を題材とし発表しました。発表準備に際しては、「We are not alone」という言葉をキーワードとし、この主張を強く支持するNASAの発表や自分の考えをまとめ、5分以内にきれいに収めることが大きな課題でした。原稿作成の過程で、手が止まることもありましたが、「最終目標は相手の同意を得ること」という考えに基づき、聴衆の想像を刺激し、単純明快でわかりやすい発表に仕上げることができました。それを裏付けるように、審査員のコメントにはlogical, simple and clearといった単語があり、嬉しく思いました。また、このような発表ができたのは、亀山先生とキャシディ先生のご指導あってのことです。本当にありがとうございました。これからの在校生の活躍を期待しています。

高専PRコンテンツコンテスト(ショートムービー部門)報告

電気情報工学科 第4学年 村重 海月・建築学科 第2学年 安江 脩夏



私達コンピュータ倶楽部メディアチームは、今年度初開催の機構主催「高専PRコンテンツコンテスト(ショートムービー部門)」に参加しました。高専の魅力や海外に発信する動画がテーマです。本校の授業やクラブ活動、留学生の感想などを撮影し、仮想キャラが紹介するように編集しました。応募10作品中予選で3作品が選出され、長岡市での高専フォーラム初日8月21日に本選が行われました。本選では上映とプレゼンを行い、入賞(準優勝相当)となりました。今回、募集から締切まで中間試験を挟み大変でしたが、本校で撮影した素材から高専全体を紹介するものに仕上げることができ高い評価を頂きました。国際交流室はじめご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

第28回全国高専プログラミングコンテスト報告

電気情報工学科 第4学年 丹羽 拓実



私達コンピュータ倶楽部は、活動の一環として例年参加している「全国高専プログラミングコンテスト」に参加しました。

競技部門には、5年生1名、3年生2名のチームで出場しました。ルールが発表された後すぐにプログラムを作成し練習を繰り返した結果、決勝戦まで勝ち進むという近年では最高の成績を収めることが出来ました。課題部門には、専攻科2年1名、4年生2名、2年生2名のチームで出場しました。スポーツ観戦者の減少という課題を解決するため、試合情報を投影した透明スクリーン越しにスタジアムの生の試合を観戦するシステムを開発し発表しました。結果は敢闘賞&パテント審査奨励賞でした。今回、自分たちのアイデアやスキルを向上させることができました。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

平成29年度パテントコンテスト優秀賞(特許出願支援対象)を受賞して

環境都市工学科 第5学年 前野 航輝



「ものづくりリテラシー教育実習」での活動の一環として、環境都市工学科の宮下侑莉華さん、脇田裕里さん、傍嶋遥音さん、中村美沙希さん、若原巧実君と共に、平成29年度パテントコンテストに参加しました(主催:文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館)。その結果、活動の成果を応募したラウンドセルカバーが優秀賞(特許出願支援対象)を受賞しました。本科生としては初のことと聞き大変光栄に思うと同時に、私たちが提案したものが社会の役に立つことを期待しています。今年度は全国の高校生、高専生や大学生から525件の応募があり、29件が優秀賞(特許出願支援対象)に選ばれました。現在は、特許出願のための準備をしています。

クラブ紹介・同好会紹介

バスケットボール部

電気情報工学科 第4学年 岩澤 政利

私たち「男子バスケットボール部」は、今年度の部員数は約30名で高校や大学の大会、高専大会に向けて厳しい練習を重ね日々頑張っています。週5日の練習のなかで基礎からゲームまで多様な練習をしています。またテスト習慣による休暇もしっかりとっているため勉強に支障をきたすことはありません。

次に具体的な実績を紹介いたします。東海地区高専体育大会では一位入賞(写真)を果たしました。高校の大会では昨年のウィンターカップで悔しくも初戦敗退という結果でしたが、この経験を糧に真剣に取り組み、年明けに開催された新人戦では前年より良い結果を残すことができました。また上級生のみんなは下級生を支えるため様々なアドバイスをかけるなど、とても優しく頼りになる先輩ばかりです。そのため悩みや分からないことがあれば気軽に相談しやすい雰囲気です。そして学年の垣根を越えて仲がいいことがうちの部活の特徴です。経験、未経験は関係ありません！やる気さえあれば歓迎します！うちの部活に興味を持った方はぜひ見学に来てください！



硬式野球部

硬式野球部 顧問 麻草 淳

野球部は2チーム体制となっており、3年生以下は高校野球連盟に登録し甲子園を目指し、4・5年生は高専大会での全国優勝を目指します。高校野球を終えてさらに2年間、同じメンバーで全国大会を目指せるのが高専野球の大きな特徴です。2チームで一緒に練習する際には、下級生はひたむきなプレーを、上級生は余裕のあるプレーぶりを見せ、お互いに刺激を与えあっています。プレッシャーから解放された(?)上級生の練習は、本当に野球を楽しんでいるように見えます。日々の活動はそれぞれのチームの主将が中心になって考え自主的に運営されており、皆が目的を共有し集中した雰囲気で行われています。また、毎週金曜日の朝にはグラウンド周辺環境整備、学校周辺のゴミ拾いを行っています。このような取り組みの成果として、高野連チームではH28年度県下選抜大会優勝、H29年度は岐阜県工業高校大会優勝という結果を残すことができました。

こうした選手たちの活動は、給水や補食の準備、その他雑用を懸命にこなしてくれる5名の女子マネージャーに支えられています。さらには、保護者会「小話親話会」にも様々な面でご支援をいただいておりますので紹介いたします。



サッカー部

サッカー部 顧問 中島 泉

今年の岐阜高専サッカー部は久しぶりに全国高専大会に出場しましたが、緒戦で優勝した鹿児島高専と対戦し惜敗しました。東海地区の高専サッカーは高いレベルで競り合っていますが、東海大会の激戦を勝ち抜いて来年も全国大会に出場できるよう練習を重ねています。

また、高校サッカーではG3リーグからG2リーグへ昇格することになりました。インターハイ県予選でもベスト8まで進みました。この数年で実力を付けてきているので、上のリーグでも十分活躍できると思います。

さらにオープン参加ですが、大学サッカーのリーグ戦である三岐リーグにも参加して技術を磨いています。

このように、岐阜高専サッカー部は高専大会、高校の大会、大学の大会に参加し、実績を積み重ねています。これからも活躍を続けていくことでしょ。



天究同好会

環境都市工学科 第2学年 中村 星南

「天究同好会」、それは「天文」を研「究」する星好きたちによる星好きのための「同好会」である。一と言っても、いかにもといった堅苦しいものではなく、ゆるりと活動する和気あいあいとした同好会です。

今年度は、夏に日本一美しい星空を見ることが出来るという長野県阿智村へ行きました。しかし、天候に恵まれなかったため、来年度にまた挑戦しようと思っています。

天究同好会には立派な天体望遠鏡があり、使用させて頂くことも出来ます。天体望遠鏡を触ってみたい方、天体観測に行ってみてみたい方、そして何よりほんの少しでも星に興味のある方は、兼部も可能ですので、ぜひ一度覗いてみてください。



平成29年度 海外インターンシップ 派遣者一覧

専攻科1年(特別実習)

派遣先機関・大学	国名	学生氏名	実習開始日	実習終了日
バンドン工科大学	インドネシア	浦崎 新八郎	9月4日	9月22日
		松永 成偉人		
		藤井 耀午		
マレーシア工科大学	マレーシア	白井 ルーク裕也	9月1日	9月21日
		市橋 大樹		
		青木 崇		
トリノ工科大学(タンセント校)	ウズベキスタン	三川 雅和 橋本 拓実	8月9日	8月30日
ハノーバー大学	ドイツ	岩田 鉄平 橋口 喬太	9月13日	9月30日
アイオワ大学	アメリカ合衆国	藤澤 功 大野 開世	8月27日	9月15日
TYK Limited(株)TYK 海外現地法人)	イギリス	青木 皓平 丹羽 雅也	8月21日	9月11日

平成29年度 包括交流協定等締結大学 留学生受入一覧

大学名	国名	所属	人数	開始日	終了日
リールA技術短期大学	フランス	学部	2	4月6日	6月29日
アイオワ大学	アメリカ	学部	2	5月24日	6月10日
バンドン工科大学	インドネシア	学部	2	6月13日	7月19日
マレーシア工科大学	マレーシア	大学院	1	7月4日	7月21日
		学部	1		
ハノイ建設大学	ベトナム	学部	2	7月4日	7月23日
中部土木大学		学部	2	7月19日	8月6日
ハノイ工科短期大学	ベトナム	学部	2	7月19日	8月6日
トリノ工科大学	ウズベキスタン	大学院	2	8月23日	8月31日
ハノーバー大学	ドイツ	大学院	2	8月23日	9月3日
リパブリック・ポリテクニク	シンガポール	学部	3	10月1日	2月28日